

家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む）※一般的包括科目 ◆教科及び教科の指導法に関する科目

阿部 睦子 単独

(中学校及び高等学校 家庭)

2年 前期 教職課程必修 (2単位 講義)

家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む)

■授業の方針・概要

社会生活の基本単位としての家庭を経営する視点から、家族や家庭を巡る諸現象の考察を通して、より良い生活設計のあり方を探ります。授業形態は講義・演習を基本としますが、授業の展開は学生が主体的に取り組めるようにし、今後、教職の学習指導に活かすことができるとともに、学生自身の生活にいかすことを目指します。

■到達目標（学修成果）

今日の生活スタイルの特徴を理解し、①家族関係・家族心理について、②衣食住の運営について、③家庭経済について、④家庭管理についてなどの視点から家庭経営について系統的に考え理解できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、選択科目として卒業要件科目となり、教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：授業計画、生活構造の概要を知り、家庭生活の本質について考える。	予習：シラバスをよく読む。 復習：配布資料を見直す。	30分
2回	家族の形成と変遷：家族とは何か、家族の形成を中心とした人間生活の成り立ちについて歴史を辿ることで考える。	復習：配布資料を見直し、家族の形成についての理解を深める。	30分
3回	家族や家族関係をめぐる現代の諸現象と問題：現代の家族や家族関係の問題と改善案を考える。	復習：配布資料を見直し、家族関係や家族心理についての理解を深める。	30分
4回	自分らしく生きるための生活設計：生涯を見通す長期、中期、短期の設計など、ライフプランについて考える。	予習：将来をイメージしてくる。 復習：配布資料を見直す。	60分
5回	生活時間の実態と分類：生活時間からワークライフバランスについて考える	復習：配布資料を見直し、生活時間についての理解を深める。	60分
6回	「食べる」：家庭経営を具現化するために、食生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、食生活について理解を深める。	60分
7回	「着る」：家庭経営を具現化するために、衣生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、衣生活について理解を深める。	60分
8回	「住まう」：家庭経営を具現化するために、住生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、住生活に理解を深める。	60分
9回	「育つ・育てる」：子どもを育てる視点から家族心理と家庭内の人間関係を考え、よりよい家庭経営の方向を考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、子どもの成長に関しての理解を深める。	60分
10回	「高齢社会」：高齢者の視点から家族心理と家庭内の人間関係を考え、よりよい家庭経営の方向を考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し高齢者についての理解を深める。	60分
11回	「買う」：ライフステージ別の家計の具体例を通して家計の実態を知り、家庭経済と家庭管理について考える。	予習：発表者は準備。復習：買うことを通して社会とつながる家庭経済についての理解を深める。	60分
12回	「ジェンダー」：男女共同参画社会をベースに、よりよい家事労働の在り方について考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直しジェンダーについての理解を深める。	60分
13回	「持続可能な社会」：ESD・SDGsを通して、循環型社会を創る消費者のライフスキルについて考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、持続可能な社会の形成についての理解を深める。	60分
14回	「シチズンシップ」：家庭経営と協働・共生生活を拓くライフスキルについて考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、シチズンシップ教育の広がりについて理解を深める。	60分
15回	まとめ：課題のフィードバックを行い、家庭経営についての理解を深める。	予習：これまでの学習を振り返る。 復習：今後の生活課題を自覚する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

・基本的に授業の前後どちらかに振り返りの時間を設け、ナラティブなど記述する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

・授業姿勢（欠席・遅刻も含む）

・日常課題を重要視する。

■教科書

・生きる力をつける学習-未来をひらく家庭科- 望月 一枝 著者代表 教育実務センター

■参考文献

・21世紀の生活経営-自分らしく生きる- 白井和恵 編著 同文書院

■オフィスアワー・研究室

・授業終了後30分程度・第3校舎講師控え室（第3校舎1階）、その他何かあれば教務室経由でお願いします。

服飾造形基礎Ⅰ ※一般的包括科目

水野 真由美・宮澤 光与 クラス分け

1年 前期

教職必修 (3単位 演習)

◆教科及び教科の指導法に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

被服学(被服製作実習を含む)

■授業の方針・概要

服飾造形のスカートに関する製図方法と基礎的な知識や技術を修得する。

■到達目標 (学修成果)

服飾造形の基本アイテムとしてスカートのパターンメイキング、縫製方法を学修し、制作プロセスを理解する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定科目。専門科目、服飾関係科目の初年次必修の演習科目。基本アイテムにおける服の構造を学修し、専門コースでの学修へ繋げていく。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション、電子教材の活用について、実習用具・縫製機器の名称と使用方法等の説明、基本スカートについて、採寸方法、原型説明	予習：シラバスを読む 復習：再度製図をしてみる	30分 60分
2回	スカート各種、名称・パターン説明 スカートのリサーチについて ポートフォリオについて	予習：スカートの種類、名称を調べる 復習：リサーチをする	30分 60分
3回	布の種類・地直しの仕方について、 ミシン基本操作：直線ミシン	予習：地直しの方法について調べておく 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 30分
4回	ミシン基本操作：ロックミシン 手縫い：まつり縫い各種	予習：手縫いの名称を調べておく 復習：遅滞箇所を行う	30分 30分
5回	基本製図：スカート実物大製図 スカート制作について (サイズ、デザイン、布等)	予習：1/2大で製図をしてみる 復習：布選択、地直し	60分 120分
6回	スカートリサーチ発表 トレース方法について、スカート型紙作成	予習：発表準備まとめ、電子教材の閲覧 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	90分 60分
7回	実物製作① 裁断・印入れ 小試験	予習：印入れの方法を調べる 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
8回	実物製作② 表生地縫製	予習：スカートの縫製を調べる 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
9回	実物製作③ 裏生地縫製	予習：裏地の機能について調べる 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
10回	スカートのあきについて種類・縫製方法	予習：洋服のあきについて調べる 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
11回	実物製作④ あきの始末 (フラットファスナー付け・表裏の合わせ)	予習：ファスナーの種類を調べる 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
12回	実物製作⑤ ベルト作り・付け	予習：ベルトについて調べる 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
13回	実物製作⑥ 仕上げ縫製、アイロン、提出	予習：着装方法を考えておく 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
14回	応用製図：基本スカートからの展開・縫製方法	予習：スカートの種類を書き出しておく 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 30分
15回	スカート縫製評価 小試験 スカートプレゼンテーション・まとめ	予習：発表準備、縫製の直し確認 復習：基本スカートの製図	60分 60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

課題によるが、14回目までに評価・解説のできるものは、授業内で返却する。小試験・レポート等の添削については、各担当教員から、別途返却の日程を伝達する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKING I、SEWING II、電子教材

■参考文献

図解服飾用語事典、その他 (必要に応じ授業・マナビコースで紹介)

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては、各クラス第1回目の授業に指示します。研究室：大学服飾造形研究室

■備考

進度により、日程および内容を変更する場合もある。予習・復習の時間は、進捗状況により異なるので各自、必要分を行うこと。記載は最低限の時間である。

遅滞課題、わからない箇所がある場合は、サポート授業に参加するようにする。

服飾造形基礎Ⅱ ※一般的包括科目

水野 真由美・宮澤 光与 クラス分け
1年 後期 教職必修 (3単位 演習)

◆教科及び教科の指導法に関する科目
(中学校及び高等学校 家庭)
被服学(被服製作実習を含む)

■授業の方針・概要

服飾造形のブラウスに関する製図方法と基礎的な知識や技術を修得する。

■到達目標 (学修成果)

服飾造形の基本アイテムとしてブラウスのパターンメイキング、縫製方法を学修し、制作プロセスを理解する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定科目。専門科目、服飾関係科目の初年次の演習科目。服飾造形基礎Ⅰに続き、基本アイテムにおける服の構造を学修し、専門コースでの学修へ繋げていく。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	原型について、採寸方法、身頃原型説明 1/2大製図 (原型、袖) ポートフォリオについて、ブラウスのリサーチについて	予習：採寸方法について調べる 復習：原型をかいてみる	30分 60分
2回	ブラウスの種類、名称・パターン説明	予習：ブラウスの種類を調べておく 復習：リサーチを行う	30分 60分
3回	基本製図：1/2大製図 (身頃・ショールカラー・袖) 応用製図：1/2大製図 袖 (タイトスリーブ)	予習：テキストの手順を確認する 復習：製図を見直す	45分 45分
4回	応用製図：1/2大製図 台衿付シャツカラー、フラットカラー、パフスリーブ、 ビショップスリーブ ブラウスリサーチ発表	予習：発表準備 テキストの手順を確認する 復習：製図を見直す	45分 45分
5回	ブラウス制作について (サイズ、デザイン、布等) ブラウスの前あきについて 前立ての縫製方法について	予習：服のあきについて調べておく 復習：布選択、遅滞箇所を行う	30分 60分
6回	ブラウスの衿付けについて 台衿付シャツカラーの縫製方法について	予習：衿の種類を調べておく 復習：テキストを見る、遅滞箇所を行う	30分 45分
7回	基本製図：実物大製図 (タイトシルエット) 小試験	予習：テキストの手順を確認する 復習：遅滞箇所を行う	30分 30分
8回	基本製図：実物大製図 (ショールカラー、袖)	予習：テキストの手順を確認する 復習：遅滞箇所を行う	30分 30分
9回	ブラウス型紙作成 実物製作① 裁断 (表地、芯地)	予習：地直しをしておく 復習：遅滞箇所を行う	45分 30分
10回	実物製作② 芯接着、印入れ 縫い代始末	予習：接着芯の選択 復習：作業内容の確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
11回	実物製作③ ダーツ縫い、肩縫い 衿作り	予習：縫製のためのしつけを行う 復習：作業内容の確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
12回	実物製作④ 衿付け、脇縫い 袖作り	予習：縫製のためのしつけを行う 復習：作業内容の確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
13回	実物製作⑤ 袖付け、裾始末 ボタン付け、ボタンホール	予習：ボタンの選択 復習：作業内容の確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
14回	実物製作⑥ 仕上げ縫製、アイロン、提出 応用製図：衿・袖各種製図方法	予習：着装方法を考えておく 復習：作業内容を確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
15回	ブラウス縫製評価 小試験 ブラウスプレゼンテーション・まとめ	予習：発表準備 復習：ブラウスの製図	60分 60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

課題によるが、14回目までに評価・解説できるものは、授業内で返却する。小試験・レポート等の添削については、各担当教員から、別途返却の日程を伝達する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKING I、SEWING I 電子教材

■参考文献

図解服飾用語事典、その他 (必要に応じ授業・マナビコースで紹介)

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては、各クラス第1回目の授業に指示します。研究室：大学服飾造形研究室

■備考

進度により、日程および内容を変更する場合もある。予習・復習の時間は、進度状況により異なるので各自、必要分を行うこと。記載は最低限の時間である。

遅滞課題、わからない箇所がある場合は、サポート授業に参加するようにする。

アパレル素材論

田口 雅子 単独

2年 前期又は後期 教職必修 (2単位 講義)

◆教科及び教科の指導法に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

被服学(被服製作実習を含む)

■授業の方針・概要

アパレルに使用される布に焦点を当て、基本的な知識、専門用語を理解するために説明する。応用力を育成するために、実物サンプルを提示しながら解説し、理解を深める。素材に関する知識と素材そのものが持つ手触りや布の表情など、服飾造形を作り出す素材に関心を寄せ、布の種類や構造を理解し、アパレル素材の基本的な知識を修得することを方針とする。

■到達目標（学修成果）

基本的な素材の名称や性質、専門用語、織物やニット生地に関する知識を修得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は専門必修科目で、全コース卒業要件科目となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	繊維→糸→布の製造プロセスと授業内容を説明する。ビデオ視聴	(予習) 自分と繊維製品との関係性について考察する	30分
2回	何を着ているのか 素材について	(復習) 周囲の布に興味を持つ	30分
3回	布の分類 織物とは 三原組織	(復習) 日頃の経験をふまえ、構造から考える特性を考察する	60分
4回	織物の種類と規格、物性について	(復習) 素材の特徴が織物に与える影響を考察する	60分
5回	綿について 綿織物	(予習) 様々な織物の繊維や糸、加工からできる風合いを観察する	30分
6回	綿織物	(復習) 織物名を覚え市場調査をする	30分
7回	ウールについて ビデオ視聴	(復習) ウールの風合いを観察する	30分
8回	毛織物	(予習) ウールの特徴を理解する	30分
9回	化合織織物	(復習) 長繊維の布の風合いを観察する	30分
10回	ニット 緯編	(復習) 構造を立体的に捉え、理解する	30分
11回	ニット 緯編	(復習) 構造を立体的に捉え、理解する	30分
12回	ニット 経編・レース	(復習) 構造を立体的に捉え、理解する	30分
13回	不織布・皮革	(復習) 構造を立体的に捉え、理解する	30分
14回	染色・加工・産地	(復習) 様々な技法があることを理解する	90分
15回	まとめ 課題（試験やレポート等）のフィードバックを行う	(復習) 授業内容を振り返る	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業終了時に manaba を用いた小テストを行い、翌週答え合わせをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度（出欠席）・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

「アパレル素材の基本」 織研新聞社

「ニットの基本」 織研新聞社

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（16：20～17：50）研究室（3011）

後期：水曜日（16：20～17：50）研究室（3011）

■備考

なし

和服構成論・実習Ⅰ

平塚 由美子

単独

2年 前期

教職課程必修

(1単位 実習)

◆教科及び教科の指導法に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

被服学(被服製作実習を含む)

■授業の方針・概要

我が国の民族服である和服（平面構成）の形状を理解し、手縫いで基本的な基礎技術を習得し、実物（大裁ちひとえ長着ゆかた）の制作をすることによって更に技術と知識の向上と和服に対する感心を深め、次世代へと継承する力を養う。

■到達目標（学修成果）

和服（きもの）の縫製を学び、進めていく為の総べての手縫いの技法を学び正確に速く縫う技術を習得することが出来る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目で教職課程の学生は必修である。いずれも卒業要件単位となる。服飾造形の基礎力をもとに和服に関する知識と技術の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	和服（平面構成）の特徴・和服の基礎知識と名称の説明 大裁ちひとえ長着（ゆかた）製作について、各部の名称 基本的なことについての説明（男物の違いなど） 運針用布、基礎縫い等の用布の裁断、基礎縫い見本標の作成の説明	予習 教科書和服の基礎知識(P14～21) 浴衣の仕立て方(P.54～61)を読む 和裁用具を準備する。 基礎縫い見本標の作成準備	30分
2回	年間授業計画、用具の説明、運針についての説明、練習 （授業初めに10分間運針をする） 基礎の縫い方・止め・くけについて説明し基礎縫い用布に正確に作成	予習 基礎縫い(P.50～53)を読む 復習 運針の練習	30分
3回	基礎縫い見本標を完成させ次週提出 ゆかたの下準備の説明(水通し・地直し・検品等)	復習 基礎縫い実習予定まで終了 運針の練習	30分
4回	学生の各自の採寸（寸法表に記入し毎回必ず持参する） 各自の寸法にてゆかたの柄合わせ・折り積みをする	復習 基礎縫い実習予定まで終了 浴衣地用意	30分
5回	地直しをした後、身頃と袖・おくみの柄合わせをし裁断。 袖のしるしつけをする。	予習 裁ち方教科書(P.62～65)を読む ゆかたは水通しをしてくる。	30分
6回	袖縫いに入る・袖の丸み型の作成、丸みの縫いちぢめ 丸みの始末と袖底の始末の説明	予習 しるしつけ教科書(P.67～69) 袖の縫い方教科書(P.72～73)	30分
7回	袖口の三つ折りくけの説明と袖の完成	復習 袖縫い実習予定まで終わらせる 両袖提出の準備	30分
8回	身頃の縫い方の説明（各自の寸法を確認）としるしつけの 説明 袖二枚完成させ（右・左）提出	予習 しるしつけ教科書(P.67～69)を 読む	30分
9回	身頃のしるしつけ 背縫いについて説明と実習（二度縫い） 内揚げの説明	予習 背縫い教科書(P.74～75)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
10回	背縫い・内揚げの完成	復習 背縫い・内揚げ実習予定まで 終わらせる	30分
11回	脇縫いの説明と縫代の始末の仕方の説明	予習 脇縫いの始末教科書(P84)を読む	30分
12回	脇縫いと縫い代の始末の完成	予習 肩当てつけ教科書(P.75～76) いしき当てつけ教科書(P.77)	60分
13回	肩当て、いしき当ての作り方の説明と完成 肩当て、いしき当てをつける	復習 試験問題の学習 持ち物 浴衣と半幅帯 腰ひも2本	60分
14回	ペーパーテスト（確認テスト） 浴衣の着装体験（各自浴衣持参、予備の浴衣等有り）	復習 自分で浴衣を着てみる	60分
15回	前期授業のまとめ（前期授業予定表と運針表の提出） テストの返却と答え合わせ おくみの柄合わせと裁断	予習 おくみつけ教科書(P.78)を読む	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

前期授業の感想の講評と定期試験の解説は後期授業初回に行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	日常の学習態度(出欠席、提出物の遅滞を含む)毎週の運針練習による 個別の進捗状態の記録、作品の評価ペーパーテストの成績などにより 総合的に評価する。前期授業内で運針上達の習熟度テストを実施する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

和服の基礎とゆかた製作 熊田・森田・古松・秋山 共著 (有) 創英社

■参考文献

和服地のしおり(和裁研究室編集)

■オフィスアワー・研究室

連絡先：教務課(本校舎1階) 出講日：火曜日

■備考

実習Ⅱは、実習Ⅰ（前期の課程）を修了していること

和服構成論・実習Ⅱ

平塚 由美子 単独

2年 後期 教職課程必修 (1単位 実習)

◆教科及び教科の指導法に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

被服学(被服製作実習を含む)

■授業の方針・概要

実習Ⅰ(前期)の課程で習得した基礎縫い技法を、実物制作することによって、和服の構成と手縫いの技術等への理解の向上を深める。大裁ちひとえ長着制作後、着装実習と和服・和装に関する基礎知識を学び、日本の伝統衣装である和服に関しての技術と知っておくべき知識を習得する事が出来る。

■到達目標(学修成果)

実習Ⅰの成果の上に、大裁ちひとえ長着(ゆかた)の制作達成と共に、和服の構成と和服全般に関する知識を充分理解することが出来る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目で教職課程の学生は必修である。いずれも卒業要件単位となる。服飾造形の基礎力をもとに和服に関する知識と技術の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	前期に引き続き浴衣の制作実習。 おくみしるしつけ おくみつけ	予習 おくみつけ教科書(P.78)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
2回	おくみ付けの完成と縫いしろ(耳ぐけ)の説明	復習 実習予定まで終わらせる	30分
3回	おくみの完成 衿下(三つ折ぐけ)の始末と額縁の作り方の説明	予習 衿下から裾回しの三つ折りぐけと 額縁のつくり方教科書(P.85)を読む	30分
4回	掛け衿の柄合わせ、衿と掛け衿のしるしつけの説明 本衿にかけ衿を付ける	予習 衿つけ 教科書(P.79)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
5回	各寸法を確認して衿つけの待ち針打ちについて説明、 三つ衿芯の作成	予習 三つ衿芯入れ 教科書(P.80)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
6回	身頃の衿肩回りの印付けをしてから身頃に衿をつける (印と印を正確に合わせる) 三つ衿芯入れ、衿幅を整えてしつけをかける	予習 衿先の始末 教科書(P.81)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
7回	衿先の作り方(男物・女物) 衿ぐけ(本ぐけ)の完成	予習 袖つけ 教科書(P.86)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	30分
8回	袖つけの説明と作成 袖の振り(女物)と人形(男物)の説明	予習 教科書(P.72~73)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	60分
9回	肩当ての始末 袖付けの完成と仕上げ 畳み方を覚える	予習 肩当ての始末 教科書(P.87)を読む 復習 実習予定まで終わらせる	60分
10回	【着物学】着物の構成と装い等の基礎知識の習得 浴衣の提出開始	復習 実習予定まで終わらせる	60分
11回	着物の織と染の種類 実際に見て触って羽織ってみて手触りなどを確認する。	予習 教科書(P.14~43)を読む	30分
12回	成人式に向けて着物を着たときのマナーについての説明 正月等のお祝い用に使う吉祥模様等の説明 確認テストの範囲 浴衣の提出期限	予習 教科書・配布プリントの範囲を覚える 復習 着物での立ち振る舞いを覚える 確認テストの勉強	60分
13回	確認テスト 各自製作のゆかたの寸法・柄合わせをチェックしながら、 自装・他装で着装して帯結びをし着心地を確認する	予習 自装の準備(腰ひも2本・半幅帯) 復習 家庭でもう一度着装してみる	30分
14回	着物学の感想を話し合いレポート作成 提出 後期授業予定表・運針表に感想を記入し提出	準備 自由着装発表の準備	30分
15回	「私のきもの遊び」と題して制作した作品を個性を生かし 自由な発想で着てみる。授業のまとめと感想	着物を自由にアレンジして発表	30分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

授業内での実技テストと製作作品については14回目で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	20%
外部評価・検定試験結果	0%

日常の学習態度(出欠席、提出物の遅滞を含む)、毎週の運針練習による個別の進歩の状態の記録、作品の評価、ペーパーテストの成績などにより総合的に評価する。
後期授業期間末に技術習得状況を確認するため、技術実習テストを実施する。

■教科書

和服の基礎とゆかた製作 熊田・森田・古松・秋山 共著 (有)創英社

■参考文献

和服地のしおり(和裁研究室編集)

■オフィスアワー・研究室

連絡先: 教務課(本校舎1階) 出講日: 火曜日

■備考

実習Ⅱは、実習Ⅰ(前期の課程)を修了していること。

衣服材料学 ※一般的包括科目

三代 かおる 単独

1年 前期又は後期 教職必修 (2単位 講義)

◆教科及び教科の指導法に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

被服学(被服製作実習を含む)

■授業の方針・概要

衣服を構成する要素として衣服材料は重要な役割を果たしており、衣服材料の知識は服飾に関するすべての分野において必要な基本知識である。衣服材料の物理的・化学的性質を理解し、それぞれの特徴を把握することは、衣服を作り出していく上で重要な基礎となることを、身近な材料として興味を持ちながら身につけていけるように配慮する。

■到達目標（学修成果）

衣服材料の基礎的知識の習得により、衣服の設計製作において目的に応じた適切な材料の選択ができ、自分の着ている衣服の素材や店頭の衣服に用いられている材料について、説明できるレベルの到達を目指す。また、衣服材料を詳しく理解することでその着心地や管理方法にも関連づけて興味を持てることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、服飾造形に繋がる衣服材料の基礎を学習する科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス 衣服材料学とは	予習:シラバスを読む。教科書で繊維名を確認しておく。	20分
2回	繊維の分類	復習:教科書を読み、繊維の分類を理解する。	30分
3回	繊維の物理的性質	復習:教科書を読み、物理構造と強伸度曲線を理解する。	30分
4回	繊維の化学的性質	復習:教科書を読み、化学構造と吸水性吸湿性の関係を理解する。	30分
5回	植物繊維	復習:教科書を読み、植物繊維についてノートにまとめる。	30分
6回	動物繊維 天然繊維のまとめプリント配布	復習:教科書を読み、動物繊維についてノートにまとめる。	30分
7回	再生繊維	復習:教科書を読み、再生繊維についてノートにまとめる。	30分
8回	半合成繊維 化学繊維のまとめプリント配布	復習:教科書を読み、半合成繊維についてノートにまとめる。	30分
9回	合成繊維	復習:教科書を読み、合成繊維についてノートにまとめる。	30分
10回	改良化学繊維	復習:教科書を読み、改良化学繊維についてノートにまとめる。総復習。	120分
11回	繊維総復習試験	復習:試験問題を振り返る。	30分
12回	繊維の燃焼実験 レポート提出	予習:繊維の分類を確認する。	20分
13回	糸の分類	復習:教科書を読み、糸の分類をノートにまとめる。	30分
14回	織物、編物の構造	復習:授業すべての総復習をし、理解を深める。	120分
15回	まとめ 課題(試験やレポート等)のフィードバックを行う	復習:試験問題を振り返る。	20分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

配布したプリントの解説、授業内復習試験により繊維の知識を定着させる。繊維の燃焼実験を行い、細部まで観察して繊維についての理解を深め、レポートを個別に添削返却して解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

鈴木美和子ほか著、新版アパレル素材の基本、織研出版社、2018

■参考文献

授業内で適宜紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期 水曜日(10時30分～10時40分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

後期 水曜日(12時10分～12時50分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

■備考

必ず教科書を持ってくること。

衣服管理 ※一般的包括科目

三代 かおる 単独
2年 前期又は後期 教職課程必修 (2単位 講義)

◆教科及び教科の指導法に関する科目
(中学校及び高等学校 家庭)
被服学(被服製作実習を含む)

■授業の方針・概要

衣服は着用による汚れを回復させること(洗濯)と製品本来の性能を維持すること(手入れ、保管)を繰り返した後、廃棄あるいはリサイクルされるという一生を送る。本講義では、衣服を管理するために必要な洗浄理論や適切な保管方法を中心に学ぶ。市販されている洗濯関連商品と衣服により、実生活と結びつけてイメージしやすいように実施する。

■到達目標 (学修成果)

市販の衣料用洗剤の種類や成分表示、衣類に付着している取り扱い絵表示、洗濯機や乾燥機の機能に関心を持ち、衣服に適した洗濯や保管を行うことで、最初の綺麗で美しい状態を保持し、長く大切に衣類を扱える能力を習得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目であり、服飾造形関係の基礎を学習する科目。卒業要件科目。教職課程履修者は必修科目となる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	ガイダンス 衣服管理とは 洗濯に関する知識の確認	予習:シラバスを読む。日常で使用している洗剤の確認をする。	20分
2回	衣服の汚れ 衣服の機能との関係	復習:授業資料の確認をし、衣服の機能を理解する。	30分
3回	水と洗剤 硬度成分の影響	復習:教科書を確認し、硬水の影響を理解する。	30分
4回	衣服の洗浄 洗浄に関わる要因	復習:教科書を確認し、洗浄に重要な要素を理解する。	30分
5回	界面活性剤 分類と構造 洗剤プリント提出	予習:家庭の洗剤成分を調べる。	30分
6回	配合剤 種類と作用	復習:教科書を確認し、界面活性剤と配合剤を理解する。	30分
7回	合成洗剤と環境 現在までの変化	復習:教科書を確認し、合成洗剤の変遷を理解する。総復習する。	120分
8回	中間試験	復習:試験問題を振り返る。	30分
9回	洗浄のメカニズム	復習:教科書、配布プリントを参考にして、洗浄作用を理解する。	30分
10回	実験:界面活性剤の作用 レポート提出	予習:界面活性剤の作用を理解しておく。	30分
11回	家庭洗濯	復習:教科書を確認し、洗濯条件を理解する。	30分
12回	商業洗濯	復習:教科書を確認し、理解する。	30分
13回	漂白と増白	復習:教科書を確認し、漂白剤の使用法を理解する。	30分
14回	衣服の仕上げと保管	復習:授業内容すべての総復習をして理解を深める。	120分
15回	まとめ 課題(試験やレポート等)フィードバックを行う	復習:試験問題を振り返る。	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

洗剤プリント、レポートを添削返却、解説、また授業内容課題も適宜行い理解度を確認する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (フレッシュメンション含む)	70%
期末試験・課題 (フレッシュメンション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

増子富美ほか著、生活科学テキストシリーズ 被服管理学、朝倉書店、2012

■参考文献

授業内で適宜紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期 水曜日(10時30分～10時40分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

後期 水曜日(12時10分～12時50分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

■備考

必ず教科書と配布資料を持ってくること。提出物の期日は守ること。

食物学（実践栄養学） ※一般的包括科目

島 奈緒子 単独

2年 後期 教職課程必修 (2単位 講義)

◆教科及び教科の指導法に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

食物学(栄養学・食品学及び調理実習を含む)

■授業の方針・概要

栄養素の種類と体内での働きや食生活が関係する生活習慣病など栄養学の基礎を学ぶ。様々な健康・ダイエット情報に惑わされることなく、毎日の食生活やライフステージごとに活用できる正しい知識を身につける。また食物摂取頻度調査、食事記録をつけることにより、自分の栄養摂取状態・食生活・健康状態を見直し、具体的な改善方法を検討する。

■到達目標（学修成果）

食物摂取頻度調査の結果や食事記録から自分の心と体が食生活と密接につながっていることを理解する。その上で、栄養素の特徴やバランス良い食生活とは何かがわかり、実際の食生活で実践できる。

ライフステージごとの食生活上の注意点がわかる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定については専門選択単位（ライフスタイル関係）となり、教員免許状取得のための教職課程必修科目です。学位授与の方針については、「食物学（実践栄養学）」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション—食べるとは？— 食べる意義について	予習：栄養・健康などについて知りたいことを考えまとめておく。 1-2ヶ月の食生活について振り返る。	30分
2回	栄養と栄養素について 栄養素の種類と水の働き	復習：五大栄養素についてまとめる。	30分
3回	炭水化物① 食物繊維の働き	復習：食物繊維の分類と役割についてまとめておく。	30分
4回	炭水化物② 糖質の種類と特徴および働き、人工甘味料について	復習：糖質の分類と特徴についてまとめる。	30分
5回	たんぱく質 食物摂取頻度調査の実施 たんぱく質の構造と働き	復習：アミノ酸の種類と役割についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
6回	脂質① 脂質の種類とコレステロールの特徴	復習：コレステロールの役割と特徴についてまとめる。食事記録の作成。	30分
7回	脂質② 脂質の種類と脂肪酸の特徴	復習：脂質の質についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
8回	ビタミン① 脂溶性ビタミンの種類と特徴	復習：脂溶性ビタミンの特徴と過剰症についてまとめる。食事記録の作成。	30分
9回	ビタミン② 水溶性ビタミンの種類と特徴	復習：水溶性ビタミンの特徴と役割をまとめる。食事記録を作成する。	30分
10回	ミネラル 代表的なミネラルについて特徴と働き	復習：ミネラルの種類と役割についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
11回	食事摂取基準の読み方について 適切なBMIの理解について	復習：健康的な食生活について考える。食事記録を作成する。	30分
12回	生活習慣病について① 肥満とやせによる問題	復習：生活習慣病の復習および食事記録の作成	30分
13回	生活習慣病について② メタボリックシンドローム、糖尿病、歯の健康など	復習：これまでの食事記録を振り返り、改善点を考える。	30分
14回	4群点数法の利用方法 自分に不足する栄養素と食品について考える	復習：4群点数法の復習および食事記録、レポートの作成	30分
15回	もっと野菜を食べよう 野菜を多く摂取するためにどうするか実験を通して考える	復習：授業の復習およびレポートの作成。正しい食生活を実践する。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

食事記録やレポートについては授業内で講評し、返却する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	*15分以上の遅刻は欠席扱いとする。10回以上の出席がない場合は、定期試験の受験資格がなくなるので注意すること。 *毎回数回授業までの2日間の食事記録を作成する。 また、まとめのレポート課題を提出する。
業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

「白熱教室 食生活を考える」編著者 金子佳代子/松島悦子 アイ・ケイ・コーポレーション (2,400円)

■参考文献

授業内で紹介する

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。 調理研究室：第3校舎 3002 調理実習室内

■備考

毎回、教科書とノートを持参すること。

食物学（食品学） ※一般的包括科目

島 奈緒子 単独
3年 前期 教職課程必修

(2単位 講義)

◆教科及び教科の指導法に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

食物学(栄養学・食品学及び調理実習を含む)

■授業の方針・概要

様々な食品についてその特徴や栄養成分、保存方法、鮮度の見極め方、調理法などについて解説する。また食品表示法など食に関連する法律や食品衛生、食に関する諸問題（食料自給率や食品ロス、遺伝子組み換え食品など）についても解説する。現代の食に関する諸問題を知ることで、食や健康、安全に関する情報を読み解く基礎的な力を養い、実際の食生活をより良いものにしていくことを目指す。

■到達目標（学修成果）

- ①それぞれの食品の特徴を理解し、目的に合わせた適切な選択ができる。
- ②食品表示法、食品衛生の知識をもとに適切な食品の選択をし、安全な食品の取り扱いや保存、調理ができる。
- ③様々な情報に惑わされることなく、情報を冷静に分析し、日常生活で応用できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定は、専門選択単位（ライフスタイル関係）となり、教員免許状取得のための教職課程必修科目である。学位授与の方針については、「食物学（食品学）」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	食品表示法について① 食品表示法の概要	復習：食品を購入する際に気をつけていることについて考えをまとめる。	30分
2回	食品表示法について② 期限表示と食品ロスについて、食物アレルギーとその対処法	復習：食品ロスについて、自分に出来ることを考える。	30分
3回	食品表示法について④ 有機表示と遺伝子組み換え	復習：遺伝子組み換え食品についてレポートを作成する	30分
4回	食品表示法について④ 栄養成分表示と保健機能食品（トクホ、機能性表示食品等）	復習：保健機能食品の活用について考える。	30分
5回	食品衛生について① 手洗いの注意点、食中毒の種類と原因について	復習：食中毒の原因菌の特徴をまとめる。	30分
6回	食品衛生について② さまざまな食中毒とその症状および予防法について	復習：手洗い・食中毒についてレポートを作成する。	30分
7回	乳・乳製品の特徴と栄養価、選び方、調理上の注意点	復習：牛乳の特徴についてレポートを作成する	30分
8回	肉類の種類と特徴について	復習：授業の復習	30分
9回	肉類の栄養価、選び方、調理上の注意点について	復習：肉類の調理の特性についてレポートを作成する	30分
10回	魚介類の特徴について	復習：授業の復習	30分
11回	魚介類の栄養価、選び方、調理上の注意点について	復習：魚介類の調理の特性についてレポートを作成する	30分
12回	卵、豆類、芋類の特徴と栄養価、選び方、調理上の注意点について	復習：授業の復習およびじゃがいもの特性についてレポートを作成する	30分
13回	米製品と小麦製品の特徴と栄養価について	復習：授業の復習および米の調理性についてレポートを作成する	30分
14回	野菜の特徴と栄養価、色素、褐変について	復習：授業の復習および野菜の色素についてレポートを作成する	30分
15回	果物の特徴と栄養価、色素、追熟等について	復習：授業の復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

レポートの返却及び講評は15回目の授業内で行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	*15分以上の遅刻は欠席扱いとする。10回以上の出席がない場合は、定期試験の受験資格がなくなるため注意すること。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	*授業内で扱ったテーマについてレポート課題を課す。
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

「白熱教室 食生活を考える」 編著者 金子佳代子/松島悦子 アイ・ケイ・コーポレーション (2,400円)

■参考文献

授業内で紹介する

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。 調理研究室：第3校舎 3002 調理実習室内

■備考 なし

食物学（調理実習・実験）Ⅰ

島 奈緒子 単独

3年 前期

教職課程必修

（ 1単位 実験・実習 ）

◆教科及び教科の指導法に関する科目

（中学校及び高等学校 家庭）

食物学(栄養学・食品学及び調理実習を含む)

■授業の方針・概要

実習室の都合上、人数の制限を設ける場合がある。その場合、教職履修者を優先的に受け入れる。

この授業は、単に料理を作って食べるだけの授業ではない。確かな調理技術・理論の定着のために調理を科学的な側面からも捉えられるようになることを目指す。前期は調理法別にその特徴を学び、各調理法を使用した代表的な料理を実習する。また、家庭科教員として安全で科学的な調理実習が運営できる力を身につけることを目指す。教職課程以外の学生は家庭科教員養成のための調理実習でもあることを理解した上で履修登録すること。調理実習に使用する食品を購入するために、**実習費を別途徴収する**。(昨年度は前期 13,000 円。履修者数および使用食材により変動あり。) またグループでの調理を行う。欠席は技術の習得ができないだけでなく、他の班員にも迷惑がかかるため、基本的には**欠席 2 回まで**とする。3 回以上の欠席では別課題を課す。

■到達目標（学修成果）

- ①様々な食品を知り、食品を選択するポイント（鮮度や旬、栄養価など）と基本的な調理技術を身につける。
- ②美味しさを決めるポイントを理解し、安全かつ環境に配慮した調理、片づけができる。
- ③食事マナーや盛付、歴史など食の文化的な側面を理解し、説明・実践することができる。
- ④グループによる調理実習や実験を通して仲間とのコミュニケーション能力、協調性、責任感を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件は、専門選択単位（ライフスタイル関係）となり、教員免許状取得のための教職課程必修科目である。学位授与の方針については、「食物学（調理実習・実験）Ⅰ」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、衛生について、計量の仕方	復習：レシピノートの作成	60分
2回	包丁の種類、持ち方・切り方について、切り方の練習	復習：レシピノートの作成	60分
3回	出汁の取り方 鍋を使った炊飯、煮干出汁の取り方、簡単な和食献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
4回	出汁の取り方 かつお昆布だしの取り方、鍋を使った炊き込み飯について	復習：レシピノートの作成	60分
5回	茹でる（野菜） 緑黄色野菜のゆで方、これまでの調理法で和食献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
6回	炒める、寄せる 小麦粉を使用したルウの作り方、ゼラチンの扱い方	復習：レシピノートの作成	60分
7回	煮る 野菜の煮方の注意点	復習：レシピノートの作成	60分
8回	揚げる 揚げ物の注意点と衣の種類とその役割	復習：レシピノートの作成	60分
9回	焼く（肉） 肉の扱い方（筋切りについて）	復習：レシピノートの作成	60分
10回	焼く（ひき肉） ひき肉の扱い方、これまでの調理法で洋風献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
11回	焼く（魚） 切り身魚の扱い方	復習：レシピノートの作成	60分
12回	煮る これまでの調理法を用いた和食献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
13回	炒める これまでの調理法を用いた中華献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
14回	蒸す さまざまな器具を用いた蒸し方とその特徴	復習：レシピノートの作成	60分
15回	筆記試験 簡単な調理と実習室の清掃	復習：レシピノートの作成	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出されたレポートは授業内で添削し返却。レシピノートは指定日に調理実習室に来室の上、返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	*授業内で作った料理について、レシピノートを作成し提出する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 毎回プリントを配布する。

■参考文献

中学校学習指導要領解説（技術・家庭編）、高等学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（著）
「調理学実習-基礎から応用」 編著者 高橋敦子/安原安代/松田康子 女子栄養大学出版（3,300 円）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。 調理研究室：第3校舎 3002 調理実習室内

■備考 なし

食物学（調理実習・実験）Ⅱ

島 奈緒子 単独

3年 後期 教職課程必修 (1単位 実験・実習)

◆教科及び教科の指導法に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

食物学(栄養学・食品学及び調理実習を含む)

■授業の方針・概要

実習室の都合上、人数の制限を設ける場合がある。その場合、教職履修者を優先的に受け入れる。

前期開講の調理実習・実験Ⅰの内容を発展させた内容である。半期で調理技術が格段に向上するため、実習のレベルについていけるよう、この授業からの履修ではなく調理実習・実験Ⅰを履修してほしい。前期に学んだ基本的な調理技術と知識を応用して、和・洋・中華献立や和・洋菓子、行事食に挑戦する。また教職課程履修者は教育実習で調理実習を担当する場合もあることを念頭に、調理指導に必要なスキルを実践的に学ぶ必要がある。そのため学生が教員役となり切り方など簡単な示範を行うことで、必要な能力や態度を養う。教職課程以外の学生は授業の方針を理解したうえで履修すること。また、調理実習に使用する食品を購入するために、**実習費を徴収**する。(昨年度は後期 13,000 円。履修者数および使用食材により変動あり。)またグループで調理を行う。欠席は技術の習得ができないだけでなく、他の班員にも迷惑がかかるため、基本的には**欠席 2 回までとする**。3 回以上の欠席については別課題を課す。

■到達目標（学修成果）

- ①前期に身に付けた調理技術・知識をさらに高める。
- ②身に付けた調理技術、知識をもとに条件に合った調理の計画・実施ができる。
- ③家庭科教員として調理実習を運営するための基礎的な力を身に付ける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件については、専門選択単位（ライフスタイル関係）となり、教員免許状取得のための教職課程必修科目である。学位授与の方針については、「食物学（実践栄養学）」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	乾物を使った料理 さまざまな乾物の種類とその扱い方について	復習：レシピノートの作成	60分
2回	洋菓子① 小麦粉の違いによる仕上がりの変化について	復習：レシピノートの作成	60分
3回	和菓子① 和菓子に用いる食材について、季節の菓子の制作	復習：レシピノートの作成、	60分
4回	洋食献立 ホワイトソースの作り方を理解する	復習：レシピノートの作成、	60分
5回	中華献立 中国四大料理の特徴を理解する	復習：レシピノートの作成	60分
6回	和食献立 厚焼き卵を主菜とした和食献立を作成する	復習：レシピノートの作成 厚焼き卵の調理レポートの作成	60分
7回	和食献立 味付き飯を作る際の注意点を理解する	復習：レシピノートの作成	60分
8回	和菓子② 上新粉と白玉粉を使って簡単な和菓子を作成する	復習：レシピノートの作成	60分
9回	魚の三枚おろし	復習：レシピノートの作成	60分
10回	シュガークラフト シュガークラフトの技術でデコレーションをする	復習：レシピノートの作成	60分
11回	正月料理①	復習：レシピノートの作成	60分
12回	正月料理② 代表的なおせち料理について	復習：レシピノートの作成	60分
13回	小麦粉の調理性 小麦粉の特性を活かしてうどんをこねる	復習：レシピノートの作成	60分
14回	小麦粉の調理性 小麦粉の特性を活かしてピザをつくる	復習：レシピノートの作成	60分
15回	筆記・実技試験および清掃	復習：レシピノートの作成	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出されたレシピノートは指定日に来室の上、添削し返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	*授業内で作った料理について、レシピノートを作成し提出する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

毎回授業でプリントを配布する

■参考文献

中学校学習指導要領解説（技術・家庭編）、高等学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（著）
「調理学実習-基礎から応用」 編著者 高橋敦子/安原安代/松田康子 女子栄養大学出版（3,300円）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。調理研究室：第3校舎 3002 調理実習室内

■備考 なし

住居学（製図を含む） ※一般的包括科目

萬羽 郁子 単独

3年 後期 教職課程必修 (2単位 講義)

◆教科及び教科の指導法に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

住居学・住居学(製図を含む)

■授業の方針・概要

住居学に関する基礎的知識の習得を目指し、まず、住居の役割や機能に説明する。次に、住居の歴史の変遷について概説し、間取り・生活の変化や室内環境について学習する。後半には、住まいの安全や住まいの計画（製図を含む）について学習し、健康・快適・安全な住まいについてまとめる。

■到達目標（学修成果）

人間生活の器である住居の役割を理解し、住生活に関して居住者として必要な基礎的知識を身につける。住居の役割と機能、住居の歴史の変遷と生活の変化、室内の環境整備の必要性や維持管理方法について理解する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件については、専門選択科目の単位であり、教員免許状取得のための教職課程必修科目である。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については、「住居学」は専門コースに拘らず選択することができ、専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：住居とは、授業計画 住居の役割と機能（グループワーク）	予習：シラバスを読む。中・高家庭科教科書の 関連内容を確認する。	30分
2回	気候風土と住まい（プレゼンテーション）	予習：日本・世界の住まいについて調べる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	60分 30分
3回	住宅・住生活の変遷①：古代～中世	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
4回	住宅・住生活の変遷②：近世の住宅（グループワーク）	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
5回	住宅・住生活の変遷③：近代～現代	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
6回	環境と住生活①：温熱環境	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
7回	環境と住生活②：空気・音・光環境	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
8回	住まいの安全①：高齢者を取り巻く環境・バリアフリー	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：自宅のバリアフリー調査を行いレポート にまとめる。	30分 60分
9回	住まいの安全②：家庭内事故の予防・ユニバーサルデザイン	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
10回	住まいの安全③：防災	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
11回	住まいの選択と管理	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：住宅の選択に関する課題に取り組む。	30分 60分
12回	住まいの計画①：平面図	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：製図課題の続きを行う。	30分 60分
13回	住まいの計画②：家具配置	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：家具配置課題の続きを行う。	30分 60分
14回	住まいの計画③（プレゼンテーション）	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
15回	まとめと振り返り（小テスト・レポート）	予習：これまでの学習内容を確認する。 復習：振り返りレポートを作成する。	60分 30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業中に小テスト、レポート、演習課題など返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

授業時に指示する。

■参考文献

住まいとインテリア研究会 編：図解住まいとインテリアデザイン，彰国社

水村容子・井上由起子・渡邊美樹 編：私たちの住まいと生活，彰国社

定行まり子・沖田富美子 編著：生活と住居，光生館

■オフィスアワー・研究室

前期：なし 後期：土曜日 第3校舎講師控室（第3校舎1階）

■備考

2コマ連続（7・8限と9・10限）で行う場合があります。詳細は初回授業で説明します。

保育学（実習及び家庭看護を含む）	※一般的包括科目	◆教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 家庭) 保育学(実習を含む)・保育学(実習及び家庭看護を含む)
木村 英美 単独		
3年 後期	教職課程必修 (2単位 講義)	

■授業の方針・概要

保育学においては、子どもの発達や子どもの他者への関わりについて理解する。また知識だけでなく、自らが活動を体験することにより関わり方の技術の向上を目指し、グループワークやプレゼンテーションによる学び合いによって子どもへの理解を一層広げたり深めたりする。

■到達目標（学修成果）

- ・乳幼児期の発達を理解できるようになる。
- ・乳幼児期の子どもたちが、出会う身近な存在である人的環境や物的環境との関わりを知ることができる。
- ・教材研究を通して子ども理解を深めることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件については、専門選択科目の単位となる。教員免許状取得のための教職課程必修科目である。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については、「保育学」は専門コースに拘らず選択することが出来、社会基礎力の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 保育とは何か	予習：シラバスを読む。保育とは何かについて自分なりに考えをまとめる。	30分
2回	乳児の発達の姿と保育	予習：子どもが誕生してから乳児期の発達について調べる。	30分
3回	3～5歳児の成長・発達と保育	予習：幼児期の成長・発達について調べる。	30分
4回	保育者の役割～	予習：保育者についてのイメージや役割について考えをまとめる。	30分
5回	5領域の目標とねらい・内容 幼児教育施設の違いについて	予習：子どもの育ちの側面からとらえた5領域について調べる。	30分
6回	遊びを通しての総合的な指導	予習：子どもにとって遊びとはどのような意味を持つのか考えをまとめる。	30分
7回	環境を通して行う保育・教育	予習：社会の状況に応じて変化してきた子どもを取り巻く環境について考える。	30分
8回	一人一人の発達に応じた指導	予習：特別な支援を必要とする子どもとの関わりについて、自分の体験をまとめる。	30分
9回	事例研究①幼児理解を深める…グループ協議	予習：幼児理解の事例について分析・考察する。	30分
10回	同じ遊びの目的や課題を持つ友達が協力して展開する活動	予習：誕生会などでの出し物について教材研究しておく。	30分
11回	教材研究①行事の出し物の展開を考える…グループ協議	予習：出し物に応じた教材準備、役割分担、練習をする	30分
12回	教材研究②模擬保育…グループ発表・評価・反省	予習：出し物の発表が出来るように練習しておく	30分
13回	伝統行事・伝承遊び	予習：体験したことのある伝統行事や伝承遊びについての振り返りをする。	30分
14回	事例研究②保育者の援助を考える…グループ協議 生きる力の基礎及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	予習：保育者の具体的な役割を事例について分析・考察しておく。	30分
15回	まとめ	予習：14回目までの授業の内容の復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業のはじめに前回の授業の振り返りを行う。授業の終わりに振り返りシートを記入し、授業内容の理解の深まりを確認する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

毎回レジュメを配布する。

■参考文献

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の各解説書

■オフィスアワー・研究室

前期：なし 連絡先：本校舎1階教務課

後期：土曜日（9時00分～10時40分）本校舎1階教務課

■備考

なし

教科教育法基礎（家庭）

白井 勝美 単独

2年 後期 教職課程必修（1単位 講義）

◆教科及び教科の指導法に関する科目

（中学校及び高等学校 家庭）

各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）

■授業の方針・概要

本学では、3年生の前期開講科目「教育方法論」及び後期の「教科教育法（家庭）」において、授業技術・方法についての考察を「家庭」という教科に視点を当てて実施して行く。この科目は2年次でその基礎作りをする。具体的には、ミニマイクロティーチング（3年次の内容とは違う）を通して、授業計画 授業実施 授業評価 授業改善に向けての基礎知識・方法を身に付ける。授業形態はすべて Active Learning である。

■到達目標（学修成果）

- ①ミニマイクロティーチングを通して、授業者を経験し授業方法等の課題が発見できる。
- ②実際の授業に向けて、授業準備の大切さがわかる。授業に必要な発声力、視線力等基本技術を知る。
- ③授業後の視点表によって、生徒役の意見を聞き取り今後の課題が発見できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助なると考えている。

■授業計画

回数	授業内容（内容・目標が回を横断します。）	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	① ミニマイクロの準備 ②教科の目標確認を行なう。③学習形態や授業設計について知る。	復習：個人の発表日を確認して準備を開始する。	30分
2回	ミニマイクロの実施（教材の工夫⇒ICT を活用しての教材研究について知る。）Active Learning	予習：担当者は発表準備をする。 復習：「生きる力」の内容を確認する。	60分 30分
3回	ミニマイクロの実施（発問の仕方や板書の仕方について知る。）Active Learning	予習：担当者は発表準備する 復習：「発問」と「質問」の違いを整理する。	60分 30分
4回	ミニマイクロの実施（ノート指導について知る。）Active Learning	予習：担当者は発表準備する 復習：緊張感の緩和策を考える。	60分 30分
5回	ミニマイクロの実施（学習指導案の基本的な作成の仕方について知る。）Active Learning	予習：担当者は発表準備する 復習：プレゼンシナリオの作成の重要性を整理する。	60分 30分
6回	ミニマイクロの実施（学習評価の基本について知る。）Active Learning	予習：担当者は発表準備する 復習：授業技術の整理を行なう。	60分 30分
7回	ミニマイクロの実施（授業展開の工夫（山場・見せ場等）について知る。）Active Learning	復習：授業内容を復習する。教材教具の必要性について考える	60分
8回	ミニマイクロの実施（3年次の教科教育法（家庭）に向けての課題整理を行なう。）Active Learning	復習：授業資料を振り返る 今後の課題についてまとめる。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各授業時に授業技術ポイントについてコメントと解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
ミニマイクロの実施	30%
提出物	20%
ペーパー試験	20%

■教科書

担当者がプリント資料を準備する。

■参考文献

授業時に指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期・後期 水曜日（11時00分～14時00分 教務課）

研究室 研究棟4階 教育実習研究室

■備考

教職課程と専門課程を両立すること。安易な気持ちで履修しないこと。出席を重要視するので、日頃の体調管理に気をつけること。

家庭科教育法（基礎）

鈴木 麻理絵 単独

3年 前期 教職課程必修（2単位 講義）

◆教科及び教科の指導法に関する科目

（中学校及び高等学校 家庭）

各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）

■授業の方針・概要

教員免許状取得のための教職課程必修科目であることを主眼に、家庭科教員として必要な資質・能力を高めることを目的としている。また、家庭科授業担当者の教育現場における実務経験を活かし、現状を把握して対処方法等を探る。

■到達目標（学修成果）

家庭科の目標および内容を踏まえ、年間指導計画の立案の仕方、学習指導案の作成の仕方の基礎を学び、作成できるようになる。また、効果的な教材についても知識を得る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目ではありません。教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション ・家庭科の歴史	予習：どのような家庭科教育を受けてきたかを思い出しておく。	30分
2回	家庭科教育法とは	復習：授業資料を読み返す。	30分
3回	学習指導要領（小学校）	復習：小学校の学習指導要領についてレポートをまとめる。	60分
4回	学習指導要領（中学校）	復習：中学校の学習指導要領についてレポートをまとめる。	30分
5回	学習指導要領（高等学校）	復習：高等学校の学習指導要領についてレポートをまとめる。	60分
6回	学習指導方法の要点1	復習：学習指導方法についてレポートをまとめる。	30分
7回	学習指導方法の要点2、小テスト	復習：学習指導方法をまとめた資料を読み返す。	30分
8回	年間指導計画の立案1 小テストの返却と解説	復習：配布資料を振り返る。	30分
9回	年間指導計画の立案2（中学校）グループディスカッション	復習：中学校の指導計画についてレポートをまとめる。	60分
10回	年間指導計画の立案3（高等学校）グループディスカッション	復習：高等学校の指導計画についてレポートをまとめる。	60分
11回	効果的な教材の立案・作成（グループワーク）	予習：効果的な教材を調べて来る。	30分
12回	学習指導案の立案1	復習：学習指導案の立案方法を振り返る。	30分
13回	学習指導案の立案2（中学校）	復習：学習指導案（中学校）をまとめる。	60分
14回	学習指導案のまとめ、課題提出と小テスト グループディスカッション	復習：他者の学習指導案を参考にし、レポートをまとめる。	30分
15回	家庭科教育法・学習指導要領のまとめ、課題と小テストのフィードバック	復習：試験問題を振り返る。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

8回目と15回目に課題・小テストの返却と解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

授業姿勢（欠席・遅刻も含む）・日常課題を重要視する。

■教科書

- ・中学校『新しい技術・家庭科「家庭分野」』東京書籍
- ・高等学校『家庭総合 自立・共生・創造』東京書籍
- ・佐藤文子・川上雅子『家庭科教育法』高陵社書店

■参考文献

- ・文部科学省『中学校学習指導要領 最新版 解説 技術・家庭編』
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領 最新版 解説 家庭編』

■オフィスアワー・研究室

連絡研究室：教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考

なし

家庭科教育法

鈴木 麻理絵・北折 貴子
3年 後期 教職課程必修

複数
(2 単位 講義)

◆教科及び教科の指導法に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む)

■授業の方針・概要

教員免許状取得のための教職課程必修科目であることを主眼に、家庭科教員として必要な資質・能力を高めることを目的としている。また、授業担当者の教育現場における実務経験を活かし、現状を把握して対処方法等を探る。

■到達目標 (学修成果)

中学校・高等学校家庭科の目標および内容を踏まえ、高等学校学習指導案・試験問題を作成し、効果的な教材を用いて授業を行う力量を身につける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目ではありません。教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	学習指導案の立案 1	復習：学習指導案の立案方法を振り返る。	30分
2回	学習指導案の立案 2 (高等学校)	復習：学習指導案 (高等学校) についてレポートをまとめる。	60分
3回	学習指導案の立案 3 (高等学校)	復習：学習指導案 (高等学校) についてレポートをまとめる。	60分
4回	学習指導案のまとめ・小テスト グループディスカッション	復習：他者の学習指導案を参考にし、まとめる。	30分
5回	評価方法 1 小テストの解説	復習：教科書をまとめる。	30分
6回	評価方法 2	復習：教科書をまとめる。	30分
7回	評価方法実践 グループディスカッション	復習：テスト問題を作成する。	60分
8回	効果的な教材の立案・作成 1	予習：効果的な教材を調べて来る。	30分
9回	効果的な教材の立案・作成 2	予習：効果的な教材を調べて来る。	30分
10回	効果的な教材の立案・作成 3	予習：効果的な教材を調べて来る。	30分
11回	実技指導のための教材作成 1	復習：実技指導での注意点をまとめる。	30分
12回	実技指導のための教材作成 2	復習：実技指導での注意点をまとめる。	30分
13回	実技指導のための教材作成 3	復習：実技指導での注意点についてレポートをまとめる。	30分
14回	実技指導のための教材作成 4 8～14回のまとめと小テスト	復習：実技指導での注意点をまとめる。	30分
15回	まとめ 課題 (試験やレポート等) フィードバックを行う	復習：試験 (学習指導案) を見直す。	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

5回と15回に課題についての解説と小テストを返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

授業姿勢 (欠席・遅刻も含む)・日常課題を重要視する。

■教科書

- ・中学校『新しい技術・家庭科「家庭分野」』東京書籍
- ・高等学校『家庭総合 自立・共生・創造』東京書籍
- ・佐藤文子・川上雅子『家庭科教育法』高陵社書店

■参考文献

- ・文部科学省『中学校学習指導要領 最新版 解説 技術・家庭編』
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領 最新版 解説 家庭編』

■オフィスアワー・研究室

連絡研究室：教務課 (本校舎 1 階)

出講日：土曜日

■備考

なし

教科教育法（家庭）

白井 勝美 単独

3年 後期 教職課程必修

（ 3単位 講義・演習 ）

◆教科及び教科の指導法に関する科目

（中学校及び高等学校 家庭）

各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）

■授業の方針・概要

教育実践の現場で通用する実際的な教授技能（授業設計・授業技術）を身に付ける。なお、2月に「特別授業・教壇模擬演習」プログラムを実施し、現職の家庭科教諭の指導を受ける。**授業形態はすべて Active Learning である。**

■到達目標（学修成果）

- ①指導案の基礎がわかり、授業略案が作成できるようになる。
- ②実際に授業を実施することで、授業準備の大切さがわかる。授業に必要な発声力、視線力等視点表で取り上げる16項目の授業技術が身につく。
- ③授業後の視点表によって、生徒役の意見を聞き取り今後の課題が発見できる。
- ④授業中に学校教育現場で起こりうる状況を意図的に作り出し（地震が起こるなどのサプライズ）、意見交換によってその対応を身につける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

■授業計画

回数	授業内容（目標・テーマは、回を横断する。）	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	①学習指導要領における教科の目標・内容を知る。 ②マイクロ準備	復習：各自のマイクロに向けて準備を開始する。	60分
2回	①準備他 ②家庭科マイクロ（教科の目標と内容確認を意識する。）	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
3回	①準備他 ②家庭科マイクロ（学習内容の指導上の留意点を知る。・学習評価①を意識する。）	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
4回	①準備他 ②家庭科マイクロ（ICT教材の有効性について知る。・学習評価②を意識する。）	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
5回	①準備他 ②家庭科マイクロ（学習指導法を工夫する。・教材研究①の仕方を知る。）	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
6回	①準備他 ②家庭科マイクロ（授業設計①について考える。・教材研究②の仕方を知る。）	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
7回	①準備他 ②家庭科マイクロ（教壇模擬授業準備を開始する。・授業設計②・学習指導案について考える。）	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
8回	①準備他 ②家庭科マイクロ（「生徒役視点表」を活用し技術を考察する。）	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
9回	①準備他 ②家庭科マイクロ（優れた実践研究を紹介する。）	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
10回	①準備他 ②家庭科マイクロ（サプライズ「地震が発生」）	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
11回	①準備他 ②家庭科マイクロ（サプライズ「携帯が鳴る」）	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
12回	①準備他 ②家庭科マイクロ（サプライズ「生徒が反抗」）	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
13回	①準備他 ②家庭科マイクロ（サプライズ「突然教室退出」）	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
14回	①準備他 ②家庭科マイクロ（サプライズ「生徒が寝る」）	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
15回	①準備他 ②最終レポートの提出 ③教壇模擬演習に向けての最終準備を行なう。	予習：模擬授業に向けての準備を行う。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

最終授業時に評価ポイントについて解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
日常課題	70%

- ①授業姿勢（欠席・遅刻も含む） ②日常課題を重要視する（授業計画書 マイクロ授業用教材 マイクロ授業実施 マイクロ授業報告書 生徒役活動 コメント活動 生徒役視点表 等）③その他追加については授業時に指示する

■教科書

授業時にプリントを配付する。

■参考文献

必要に応じて適宜指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期・後期 水曜日（11時00分～14時00分 教務課）研究室 教育実習研究室（研究棟4階）

■備考

- ①マイクロ用の計画表は、実施前日までに教務課に提出してください。
- ②2月にこの「教科教育法（家庭）」の中で、集中授業として「特別授業・教壇模擬授業」を実施する。12月から準備を開始する。詳細は、11月第1週の授業時に説明する。

家庭電気・機械

阿久津 勝利 単独

2年 前期 教職課程必修 (1単位 講義)

◆教科及び教科の指導法に関する科目

(高等学校 家庭)

家庭電気・機械及び情報処理

■授業の方針・概要

社会生活や家庭生活で必要となる「エネルギー変換の技術」の基礎について学びます。生活におけるエネルギーの利用について学んだ上で、日常生活で利用することが多い家庭電気機器等を取り上げ、その仕組みを知り、安全な使用方法と故障等のトラブルに対処する方法について考えます。中学校技術・家庭科における関係する指導の実際についても紹介します。

■到達目標（学修成果）

- ・生活におけるエネルギー変換の技術について関心をもつようになる。
- ・家庭生活中で利用する電気機器等の仕組みの概要を理解し、安全に利用できるとともに、正しく動作しない時に、その原因について考えることができるようになる。
- ・エネルギー変換と利用の技術についての基本を理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目となり、中学校・高等学校の教員免許取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修その後	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	日常生活におけるエネルギー利用の技術について考え、中学校における指導内容を知る。	予習：中学・高校で学んできた電気や機械に関する学習をふりかえる。 復習：学習指導要領を読んで、中学校・高等学校における指導内容を知る。	90分
2回	道具から機械の発明、機械の定義と発達の歴史、機械の構成について知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
3回	機械の運動伝達、機構、機械材料について知る。 ミシンの構成と布を縫うしくみについて知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
4回	電気エネルギーの発生と利用技術を理解するために必要な基礎知識を確認する。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
5回	電気エネルギーの熱への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
6回	電気エネルギーの光への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
7回	電気エネルギーの動力への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：関心のある機器を選び、そのしくみについて調べる。	90分
8回	電気の情報伝達への利用について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。 まとめ	復習：選んだ機器について、そのしくみと、取り扱い上の留意点等についてレポートにまとめる。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題やレポートは評価し、コメントを書いて返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%	①授業に取り組む姿勢（欠席・遅刻含む） ②課題の達成度 ③レポートの内容
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

・新しい時代の家庭機械・電気・情報 池本洋一／山下省蔵 共著 ジュピター書房

■参考文献

- ・中学校用 文部科学省検定教科書 新しい技術・家庭 技術分野 代表 田口浩継 東京書籍 令和4年度用
- ・生活家電入門 発展の歴史としくみ 大西正幸 著 技報堂出版
- ・家電が一番わかる 涌井良幸 涌井貞美 著 技術評論社

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：土曜日（11時30分～15時00分）

連絡研究室：2101教室（第2校舎1階）

■備考

なし

家庭情報処理

阿久津 勝利 単独

2年 後期 教職課程必修 (1単位 講義)

◆教科及び教科の指導法に関する科目

(高等学校 家庭)

家庭電気・機械及び情報処理

■授業の方針・概要

生活や産業における情報の意義や役割を理解し、情報処理に関する技術を高めるとともに、中学校・高等学校の家庭科教員として必要な情報や情報手段を主体的に活用する能力と態度を身に付けることをねらいとします。また、中学校における情報処理に関係する指導の実際について知り、高等学校家庭科における関連科目の指導の方法について考えます。

■到達目標（学修成果）

- ・生活や産業における情報に関する技術について関心を持つようになる。
- ・教員として必要な情報活用能力の基礎が身に付く。
- ・校務や問題解決にコンピュータを活用しようとする意欲が高まる。
- ・情報に関する基本的技術について理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目となり、中学校・高等学校の教員免許取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	・生活や産業における情報の意義や役割について考え、中学校・高等学校における情報に関する指導内容を知る。 ・コンピュータ内での情報の表現とコンピュータの構成について知る。ワープロソフトによる文書の作成を行う。	予習：自分の情報手段の活用能力を確認する。 復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
2回	・コンピュータの情報処理の仕組みと情報通信ネットワークの構成について知る。 ・ワープロソフト利用した表や図を挿入した文書の作成を行う。	復習：タイピング練習と授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
3回	・基本的な論理回路について知る。 ・表計算ソフトウェアを利用した表の作成とデータ処理1（成績処理）を行う。	復習：タイピング練習と授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
4回	・問題解決のプロセスとコンピュータの利用について知る。 ・表計算ソフトウェアを利用した表の作成とデータ処理2（グラフの作成）を行う。	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
5回	・情報社会の安全と情報モラルについて知り、考える。 ・表計算ソフトウェアを利用した表の作成とデータ処理3（関数の利用）を行う。	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
6回	・プログラムの意義と役割、アルゴリズムについて知り、簡単なプログラムの作成1を行う。	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
7回	・簡単なプログラムの作成2	予習：課題のプログラムのアルゴリズムを考える。	90分
8回	・簡単なプログラムの作成3 ・まとめ	復習：授業内容をふりかえり今後の課題について整理する。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題やレポートは評価し、コメントを書いて授業等で返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%	①活動に取り組む姿勢（欠席・遅刻含む） ②課題の達成度 ③レポートの内容
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

・高等学校用 文部科学省検定教科書 高等学校 情報I 赤堀 侃司 他 著 東京書籍

■参考文献

・高等学校用 文部科学省検定教科書 生活産業情報 実教出版
・中学校用 文部科学省検定教科書 新しい技術・家庭 技術分野 東京書籍 令和4年度用

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：土曜日（11時00分～15時00分） 連絡研究室：2101教室（第2校舎1階）

■備考

毎時間必ず教科書と授業で配布したプリント類（ファイリングしておく。）を持参してください。また、実習で作成したデータファイルを保存するためのUSBメモリーを各自購入して用意すると便利です。（詳しくは、1回目の講義で説明します。）

教育原理

柄越 祥子 単独

2年 前期 教職課程必修 (2単位 講義)

◆教職の基礎的理解に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

■授業の方針・概要

本講義は、教職課程の授業であることから、教師になることを前提として、「教育とは何か」という根本的な問いについて考え、さらに学校で教育が行われていることの意味について議論しようとするものです。授業は、講義が中心になりますが、毎時間ある程度の時間をとって、4人ほどのグループに分かれ、授業内容の確認のためのディスカッションをしていただきます。また、毎回の授業の終わりには、質問票の提出が求められます。各テーマの最初と終わりにはグループワークを行う予定です。

■到達目標（学修成果）

①自分の言葉で「教育」を定義し、今日の教育目的について理解できるようになる。②学校の発達について知り、学校の現代的な課題を理解できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目ではありません。教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション	予習：シラバスを読んで要点を確認する。	15分
2回	教育の定義（1）「教育」のイメージを探る（グループワーク）	復習：授業内で聞いた他の人の意見も参考に、自分自身の「教育」のイメージを見直す。	30分
3回	教育の定義（2）教育小事典を手がかりに	復習：プリントの取り上げた箇所を読んで、教育の定義を確認する。	30分
4回	教育の定義（3）教育学大辞典をてがかりに	復習：プリントの取り上げた箇所を読んで、ここまでのイメージや定義を見直す。	30分
5回	教育の三つのモデル 手細工モデル・農耕モデル・生産モデル	復習：プリント・教科書を参考に三つの教育モデルについて確認をする。	30分
6回	教育の新しいモデルの探求 一元論を越えたモデルを求めて（グループワーク）	復習：グループワークの内容も踏まえて教育のモデルについてまとめる。	30分
7回	「教える」と教育の違い 教育のパラドックス	復習：教科書の指摘した箇所を読んで、教育の定義についてまとめる。	60分
8回	教師を取り巻く環境 教師と子ども・教師と教師・教師と保護者・教師と国家	復習：教科書の指摘した箇所を読んで教師の環境について確認する。	30分
9回	学校とは何か（グループワーク）	復習：議論されたことの振り返りを行う。	30分
10回	学校の歴史（1）学校はどのように発達してきたか	復習：教科書の指摘した箇所を読んで学校の発達についてまとめる。	30分
11回	学校の歴史（2）複線型学校体系と単線型学校体系	復習：教科書の指摘した箇所を読んで学校の体系についてまとめる。	30分
12回	学校の歴史（3）義務教育は必要か	復習：教科書の指摘した箇所を読んで義務教育についてまとめる。	30分
13回	学校と法 教育基本法・学校教育法を中心に（グループワーク）	復習：教科書の指摘した箇所を読み、グループワークの内容も踏まえて関係法規について確認する。	30分
14回	授業内容のまとめ	復習：ノート、教科書、プリントなどを確認する。	90分
15回	グループワークによるまとめ 試験のフィードバック	予習：半期のまとめを自分なりに行う。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

14回目、15回目に試験についての解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 沼野一男ほか『教育の原理（第四版）』学文社

■参考文献

『解説 教育六法』三省堂

その他の文献は授業中に指示します。

■オフィスアワー・研究室

前期：連絡先 本校舎1階教務課

後期：土曜日の授業の前後 授業実施教室

■備考 なし

教師論

柄越 祥子 単独
1年 後期 教職課程必修 (2単位 講義)

◆教職の基礎的理解に関する科目
(中学校及び高等学校 家庭)

教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)

■授業の方針・概要

受講者がこれまでに経験してきた、学校教育の中での教師像を確認し、更にそれを乗り越えた専門職としての教師像を再構築していただく授業です。公教育やそれに関わる教員の特徴を、歴史的な背景や問題を踏まえながら、現代の学校や教師が直面している課題も考察していきます。新聞記事などを利用したグループワークや、グループ発表も行っていただきます。

■到達目標 (学修成果)

現代社会の課題を踏まえて、教職の意義、教員の役割、教員の資質能力、また職務内容などを理解すること。そして受講者自身の問題として教員という職業についての理解を深めることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この教科は、卒業要件科目ではありません。教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	イントロダクション 教師になるとはどのようなことか考える。	予習：シラバスを読んで要点をまとめる	15分
2回	公教育の目的	予習：新聞の中から教育に関する記事を探し、レポートを作成する。	30分
3回	公教育の担い手としての教師	予習：新聞の中から教育に関する記事を探し、レポートを作成する	30分
4回	教職の職業的特徴を考える	予習：新聞の中から教育に関する記事を探し、レポートを作成する	30分
5回	職業的教師の誕生	復習：教科書の指定箇所を読み、要点をまとめる。	60分
6回	近代学校における教師像の展開	予習：新聞の中から教育に関する記事を探し、レポートを作成する。	30分
7回	戦後社会の変遷と教師像	復習：これまでのレポートの中からテーマを選らび、更に深く調べてまとめる。	30分
8回	現代において求められる教師像	復習：調査・まとめを、グループ報告の形に整える。	30分
9回	教員養成制度と教職資格	復習：教科書の指定箇所を読み、要点をまとめる。	30分
10回	教員研修の意義及び制度上の位置づけ	復習：教科書の指定箇所を読み、要点をまとめる。	30分
11回	専門職としての教師	復習：グループ発表の準備	90分
12回	教員の職務	復習：他のグループの発表のまとめ	30分
13回	教育公務員の義務と身分保障	復習：他のグループの発表のまとめ	30分
14回	学校の現代的課題—「チーム学校」という考え方	復習：教科書・これまでの配布資料・ノートなどの見直し	90分
15回	まとめ 課題 (試験やレポート) のフィードバック	予習：課題の見直し	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

15回目にグループワークや試験の解説、レポートの返却を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

沼野一男ほか著『教育の原理』、学文社

■参考文献

授業中に適宜指示します

■オフィスアワー・研究室

前期：連絡先 本校舎1階教務課

後期：金曜日・土曜日の授業の前後 授業実施教室

■備考

なし

教育制度論

白井 勝美 単独
1年 後期 教職課程必修 (2単位 講義)

◆教職の基礎的理解に関する科目
(中学校及び高等学校 家庭)

教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)

■授業の方針・概要

1年生後期から教職課程の履修開始となります。本授業では、「教育」を「学ぶ立場」から、初めて「教える立場」に転換して学ぶ皆さんに、教育制度の仕組みと構造を総括的に講義します。また、教員養成に制度化されている介護等体験準備(評価含む)も本授業内で実施します。

■到達目標(学修成果)

①教育制度の関連法規である「日本国憲法23条・26条を代表とする教育関連条文」、「学校教育法1条校を代表とする学校教育法内の教育関連条文」、「教育基本法の55のキーワード」「その他制度に関する重要事項」を習得できる。②日本の教育制度の基本構造を知る。③授業を通して、日本の「学校教育」の現状について知る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション ①授業計画 ②本学教職課程の概要 ③小レポートの作成	復習 各自の学校教育経験を振り返りレポートを提出する。	30分
2回	学校教育を考える①・前回小レポートの内容紹介を通して、「学校教育」を考える。★教職課程履修申告の締切り	復習 授業資料を振り返り、学校教育の経験値の違いを知る。	30分
3回	学校教育を考える②・教育制度の概要と制度に関わる法規1(憲法・基本法他含む)近年の教育政策の動向を知る。	復習 授業資料を振り返り、「教育」のイメージ図を整理する。	30分
4回	4年生「教育実習報告会」聴講	復習 「報告会資料」を読み返す。	30分
5回	我が国の学校制度の特徴を知る。	復習 各種学校数の確認 日本国憲法23条と26条の内容を理解し暗記する。	30分
6回	①公教育の原理及び理念を理解する。②公教育制度を構成する教育関係法規を知る。	復習 学校教育法1条校を理解する。日本国憲法23条と26条を暗記する。	30分
7回	1条校、各種学校、専修学校、大学校等を通して教育行政の仕組みを知る。	復習 日本における学校制度の内容を確認する。資料内のタームを暗記する。	30分
8回	公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解する。	復習 これまでの復習と教育基本法3条までの重要ワードを暗記する。	30分
9回	教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解する。	復習 これまでの復習と教育基本法10条までの重要ワードを暗記する。	30分
10回	①学校経営の仕組みを理解する。②学校内外の関係者・関係機関との連携・協働を理解する。	復習 これまでの復習と教育基本法18条までの重要ワードを暗記する。	30分
11回	地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解する。	復習 これまでの復習と教育基本法全文中の重要ワードを暗記する。	30分
12回	地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解する。	復習 授業資料を振り返り、「生きる力」の内容を再度理解する。	30分
13回	事故及び災害の実情を踏まえて、危機管理や事故対応など学校安全の必要性を理解する。	復習 授業資料を振り返り、内容を再度確認する。	30分
14回	介護等体験オリエンテーション 我が国の学校における安全管理・安全教育の両面から具体的な取組みを理解する。	復習 授業資料を振り返り、介護等体験の意義と今後の体験方法を理解する。	30分
15回	前期授業のまとめ	復習 試験に備えて復習する。	60分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

試験内容についてポイントを解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
日常課題	30%
定期試験	40%

- ① 定期試験 ② 小レポート(教職ポートフォリオカルテを含む)
- ③ 授業姿勢(欠席・遅刻も含む)・日常課題を重要視する。
- ④ その他追加については授業時に指示する。

■教科書

授業資料プリントを作成する。

■参考文献

授業時に適宜指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期 水曜日(11時00分～14時00分) 教務課 後期 水曜日(11時00分～14時00分) 教務課
研究室 教育実習研究室(研究棟4階)

■備考

履修便覧の「教職課程について」を必ず読んでおいてください。1年生後期の教職課程3科目の単位修得が2年生以降の教職課程継続条件となります。出席を重視します。誠実に学修してください。

教育法規

東島 日出夫 単独

3年 後期 教職課程 選択 (2単位 講義)

◆教職の基礎的理解に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)

■授業の方針・概要

具体的に重要教育関連法規を一つ一つ確認して行く。それによって、教育制度の中で「学校」「教育」がどのような位置づけをされているか見えてくる。

特に、教員採用試験受験を考えている学生には必ず受講してほしい。4年次の「白井ゼミ」履修予定者はこの科目履修を条件とする。

■到達目標(学修成果)

- ①「教育基本法」のキーワードをすべて暗誦できるようになる。
- ②「学校教育法」「学校教育法施行規則」「学校保健安全法」「地方公務員法」「教育職員特例法」等の重要ワード約250ヶ所の穴埋めを完成できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者の選択科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	①オリエン ②日本国憲法 ・全体目標・一般目標の確認	復習：日本国憲法と教育基本法に関する要求項目の復習	30分
2回	①日本国憲法 ②教育基本法 (公教育の原理及び理念を理解する。)	予習：前回の内容の復習 復習：日本国憲法と教育基本法重要事項	30分
3回	①教育基本法 ②学校教育法 (教育行政の仕組みを知る。)	予習：前回の内容の復習 復習：教育基本法 前文・1条から5条	30分
4回	①教育基本法 ②学校教育法 (中央教育審議会の答申も用いて近年の教育政策の動向を知る。)	予習：前回の内容の復習 復習：教育基本法 6条から18条	30分
5回	学校教育法 (教育制度を知る。)	予習：前回の内容の復習 復習：学校教育法抽出条の復習	30分
6回	①これまでの復習 ②学校教育法施行令 ③学校教育法施行規則	予習：前回の内容の復習 復習：学校法施行規則・学校法施行令	30分
7回	①これまでの復習 ②学校保健安全法 (安全管理の面から具体的な取組を理解する。)	予習：前回の内容の復習 復習：学校保健安全法	30分
8回	①これまでの復習 ②学校給食法 ③危機管理や学校安全に関する法規の確認をする	予習：前回の内容の復習 復習：学校給食法他の復習	30分
9回	教育公務員特例法 (教育公務員としての使命等について知る。)	予習：前回の内容の復習 復習：教育職員特例法抽出条の復習	30分
10回	地方公務員法 (公務員としての使命等について知る。)	予習：前回の内容の復習 復習：地方公務員法の復習	30分
11回	①これまでの復習 ②学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解する。	予習：前回の内容の復習 復習：これまでの復習	30分
12回	地方教育行政の組織に関する法律 (教育委員会等について理解する。)	予習：前回の内容の復習 復習：地方教育行政の組織に関する法律	30分
13回	児童の権利条約 (諸外国の教育事情や我が国の学校制度との違いを知る。)	予習：前回の内容の復習 復習：児童の権利条約の復習	30分
14回	いじめ防止対策推進法	復習：いじめ防止対策推進法の復習	60分以上
15回	まとめ	復習：試験に備えて全体を見直す。	60分以上

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

試験採点後に返却して、ポイントについて解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点(出席回数、学習の取り組み(毎回小テスト)及び定期試験で評価する。)
日常課題	30%	
定期試験	40%	

■教科書

『教育小六法2022』学陽社 を必ず購入すること。

この「教育小六法」をテキストとして使用します。

■参考文献

授業時に適宜指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期・後期 水曜日(11時00分~14時00分 教務課)

研究室 教育実習研究室(研究棟4階)

■備考

採用試験の準備を開始すること。以前配布した採用試験対策プリントを見直すこと。相談も受け付ける。

教育心理学

手島 陽介 単独
1年 後期 教職課程必修

(2 単位 講義)

◆教職の基礎的理解に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

■授業の方針・概要

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導について学習する。

■到達目標（学修成果）

幼児、児童及び心身の発達過程及び特徴を理解し、発達を踏まえた学習の形態や概念、主体的な学習活動を支える指導について理解する。また、教師としての生徒とのかかわり方の基礎を体験的に学習し習得することが目標である。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、卒業要件科目ではなく、教員免許状取得のための教職課程必修科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	教育心理学と課題 ー教育の目的、教育心理学の領域についてー	予習:小中高時代の受けてきた教育について振り返る	15分
2回	発達と教育① ー各発達段階における概念、発達理論ー	復習:教科書を読み返し、子どもの発達と教育について考える	30分
3回	発達と教育② ー運動発達・言語発達・社会性の発達についてー	復習:エリクソンの発達段階説から、児童生徒の心理的葛藤について復習する	30分
4回	発達と教育③ ー各発達段階における指導についてー	復習:発達段階における指導について、プリントと教科書を復習する	30分
5回	特別支援教育と発達障害 ー特別支援教育の場、発達障害についてー	復習:プリントと教科書を読み、発達障害について特徴を振り返る	30分
6回	適応の心理と教育について① ーいじめの心理ー	復習:教科書とプリントからいじめの定義と現状について振り返る	30分
7回	適応の心理と教育について② ー不登校の心理ー	復習:教科書とプリントから不登校の定義と現状について振り返る	30分
8回	適応の心理と教育について③ ー自殺年慮者の心理ー	復習:教科書とプリントから自殺の定義と現状について振り返る	30分
9回	動機づけ ー動機づけの理論、学習性無力感と学業不振ー	予習:新聞やニュースより、教育心理に関わる内容を見つけてくる	60分
10回	動機づけ ー児童・生徒の意欲を高めるために、集団づくりー	復習:教育現場における内発的動機づけ、外発的動機づけの例を考える	30分
11回	学級の心理 ー日本と世界の学級、いじめ・自殺・ひきこもりの現状、集団の心理についてー	予習:自身の経験からどのような学級が望ましいかを考える	30分
12回	授業法 ー授業とは、授業にかかわる諸要因、さまざまな授業方法ー	復習:授業方法についての、教科書、プリントを読み復習する	30分
13回	教育評価の意義、教育評価の方法	復習:体験した内容を振り返り、プリント、教科書を読み返し復習する	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ 課題や小テストのフィードバックを行う	復習:返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説とテストの返却をし、教育心理学のまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

松原達哉 『教育心理学』 丸善出版
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室 後期：水曜日（12：00-15：00）研究室
【連絡研究室】心理学研究室（研究棟1階 6015）

■備考

毎時間、プリントと教科書を準備してください

特別支援教育概論

星 祐子 単独

2年 前期 教職課程必修

(2単位 講義)

◆教職の基礎的理解に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

■授業の方針・概要

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害を始めとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上・生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学習していく。

■到達目標（学修成果）

- ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達について理解できる。
- ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法が理解できる。
- ・障害はないが、特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上・生活以上の困難とその対応が理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、令和二年度から設置された教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の経緯や理念、仕組み	復習：近年の特別支援教育に関する制度の復習	60分
2回	学習指導要領における特別支援教育	予習：学習指導要領の確認 復習：学習指導要領の記載について復習	60分
3回	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程	予習：幼児、児童、生徒の心身の発達について下調べ	60分
4回	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒への配慮と具体的な支援について（グループディスカッション）	予習：特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒に対する支援について下調べ	60分
5回	障害のある幼児、児童、生徒の学習上・生活上の困難について	予習：障害種についてテキストで確認	60分
6回	障害のある幼児、児童、生徒への配慮と具体的な支援について（グループワーク）	復習：障害のある幼児、児童、生徒への配慮についてレポートをまとめること	120分
7回	特別支援学校、特別支援学級、通常の学級など連続性のある多様な学びの場と合理的配慮について	予習：連続性のある多様な学びの場についての下調べ	60分
8回	自立活動の教育課程上の位置づけと内容について	予習：学習指導要領の「自立活動」の記載について確認	60分
9回	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成の意義と活用（グループディスカッション）	予習：個別の教育支援計画、個別の指導計画について確認	60分
10回	心のバリアフリー教育の推進、交流及び共同学習について（レポート作成）	予習：心のバリアフリー教育について下調べ	60分
11回	学校における支援体制づくり、特別支援教育コーディネーターの役割（グループディスカッション）	復習：特別支援教育コーディネーターの役割について復習	60分
12回	保護者（家族）・関係機関との連携	予習：文献等から保護者や関係機関との連携についての情報収集	120分
13回	母国語や貧困等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の困難と対応について（グループディスカッション）	予習：母国語や貧困等に起因する困難さのある幼児児童生徒について情報収集	120分
14回	諸外国における特別支援教育の体制	復習：諸外国の特別支援教育について復習	60分
15回	特別支援教育概論のまとめ	予習：特別支援教育概論全体を通しての確認	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内及び復習課題でのレポートについては、確認後、必要に応じて添削、授業内で解説をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト Gakken

■参考文献

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）平成30年3月

■オフィスアワー・研究室

前期：土曜日 本校舎1階教務課

後期：なし

■備考

毎時間、必ずテキストを持参してください。

教育課程論

白井 勝美 単独
2年 前期 教職課程必修 (2単位 講義)

◆教職の基礎的理解に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

■授業の方針・概要

1年生の「教育制度論」を引き継ぎ、学校教育の制度・行政・課程について「学習指導要領」に視点を当てて考察して行く。概要は授業計画に記す。尚、介護等オリエンテーション(評価も含む)も本授業内容に含める。

■到達目標(学修成果)

①「学習指導要領」の歴史の変遷を知る。②これまでの「学習指導要領」の総則の主眼内容を知る。③高等学校の「家庭」の指導内容を知る。④家庭科必修漢字を習得する。⑤介護等体験の事前学習内容を知る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

■授業計画

回数	授業内容(内容が回数を横断する場合がある。)	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	①オリエン ②教育課程(カリキュラム)編成の基本原則について ③教員採用試験について 家庭科教員必修漢字1	復習:家庭科教員必修漢字1の復習	30分
2回	①教育課程編成と「学習指導要領」について ②介護等体験について ③家庭科教員必修漢字2	復習:家庭科教員必修漢字2の復習 介護等体験の必要性について整理する。	30分
3回	①「学習指導要領」と教育課程の改訂について ②家庭科教員必修漢字3	復習:①家庭科教員必修漢字3の復習 ②テキストを読み返す。	60分
4回	①「学習指導要領」の歴史の変遷と改訂内容1(性格・位置づけ他)について ②家庭科教員必修漢字4	復習:家庭科教員必修漢字4の復習 学習指導要領の歴史について整理する。	30分
5回	①「学習指導要領」の歴史の変遷と改訂内容2(社会的背景他)について ②家庭科教員必修漢字5	復習:家庭科教員必修漢字5の復習 予習:中間漢字テストの準備	60分
6回	①「学習指導要領」の歴史の変遷と改訂内容3(役割や機能他)について ②中間漢字テスト	復習:学習指導要領の推移をまとめる	60分
7回	①平成30年の「学習指導要領」の改訂と教育課程について ②家庭科教員必修漢字6	復習:家庭科教員必修漢字6の復習 「生きる力」について簡潔に説明	30分
8回	①教育課程が社会に果たしている役割と機能(地域連携・学校安全)について ②家庭科教員必修漢字7	復習:家庭科教員必修漢字7の復習 「高等学校学習指導要領 総則編」復習	60分
9回	①これまでの内容の整理 ②介護等体験の概要について ③家庭科教員必修漢字8	復習:家庭科教員必修漢字8の復習 「中学校学習指導要領 総則編」復習	60分
10回	①教育内容の選択・配列する方法について ②介護等オリエンテーション	復習:介護等体験活動の準備内容の整理	30分
11回	①地域の実態に沿った教育課程や指導計画について ②家庭科教員必修漢字9	復習:家庭科教員必修漢字9の復習 「指導計画」の復習	30分
12回	①カリキュラム・マネジメント1(意義や重要性について) ②家庭科教員必修漢字10	復習:家庭科教員必修漢字10の復習 カリキュラムマネジメントの復習	30分
13回	カリキュラム・マネジメント2(学力とカリキュラム評価の視点について)	復習:授業資料の再確認 カリキュラムマネジメントの復習	30分
14回	カリキュラム・マネジメント3(課題について)	復習:授業資料の再確認 カリキュラムマネジメントの復習	30分
15回	①授業の総括(学習指導要領、教育課程、カリキュラムマネジメント) ②漢字テスト	復習:授業資料をすべて振り返る。	60分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

試験について授業時にポイントを解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	①試験 ②小レポート
日常課題	10%	③授業姿勢(欠席・遅刻も含む)・日常課題を重要視する。
定期試験	60%	④その他追加については授業時に指示する。

■教科書

各最新版

『中学校学習指導要領解説—技術・家庭編—』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省

『高等学校学習指導要領解説 家庭編』文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省

■参考文献

授業時に指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期・後期 水曜日(11時00分～14時00分 教務課)

研究室 教育実習研究室(研究棟4階)

■備考

なし

道徳の指導法

柄越 祥子 単独
2年 後期 教職課程必修 (2単位 講義)

◆道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
(中学校及び高等学校 家庭)
道徳の理論及び指導法

■授業の方針・概要

特別の教科「道徳」は、これまで私たちが受けてきた「道徳」と何がちがうのでしょうか。そもそも、「道徳」とは何で、それを教科として学校の課程に設置することにどのような意味があるのか、そして実際にどのように授業を行っていけばいいのか。歴史や現在の社会状況を踏まえて検討していきます。また実際の授業を構成展開していくために、模擬授業やグループワークを通じて考えていきます。

■到達目標（学修成果）

①道徳教育の歴史的背景を理解する。②中学校の「道徳」の学習指導案を作成する基礎知識を習得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目ではありませんが、教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス及び自身の道徳教育経験の振り返り	予習：シラバスの内容の確認。復習：授業内での話し合いを参考に自身の経験を振り返る。	15分
2回	学校体験の中での「道徳」と特別の教科「道徳」	復習：道徳が教科になるとこれまでとどう違うのか確認する。	30分
3回	明治・大正期の道徳教育	復習：プリントを参考に、戦前の道徳の道徳教育について確認をする。	30分
4回	昭和（戦前期）の道徳教育	復習：プリントを参考に、昭和期の道徳の道徳教育について確認をする。	30分
5回	戦後の道徳教育	復習：プリントを参考に、戦後の道徳の道徳教育について確認をする。	30分
6回	現代における道徳教育の課題	復習：プリント・教科書を参考に道徳教育の課題を確認する。	30分
7回	特別の教科「道徳」の意義と学習指導要領の検討	復習：プリント・教科書を参考に道徳教育の課題を確認し、まとめる。	30分
8回	学校教育活動全体の中での道徳教育と特別の教科「道徳」	復習：要としての「道徳」の授業について確認する。	30分
9回	学習指導案の作成と学習評価	復習：学習指導案の書き方を確認し、作成する。	30分
10回	模擬授業と振り返り①道徳の授業のねらい	復習：自身の学習指導案の見直しを行う。	30分
11回	模擬授業と振り返り②道徳の授業の構成	復習：模擬授業の振り返りを行う。	30分
12回	模擬授業と振り返り③道徳教材の活用	復習：模擬授業の振り返りを行う。	30分
13回	模擬授業と振り返り④発問や板書の検討	復習：模擬授業の振り返りを行う。	30分
14回	授業の振り返り	復習：ノート・配布資料などの整理、見直し	60分
15回	まとめ 課題（試験やレポート等）のフィードバック。	復習：試験問題の見直し	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に試験の解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」（最新版）文部科学省

■参考文献

好井裕明『他者を感じる社会学—差別から考える』ちくまプリマー新書（2020）

その他、授業中に適宜紹介します。

■オフィスアワー・研究室

前期：本校舎1階教務課

後期：土曜日の授業の前後 授業実施教室

■備考

なし

総合的な学習の時間の指導法

今泉 朝雄 単独
3年 後期 教職課程必修 (2単位 講義)

◆道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
(中学校及び高等学校 家庭)
総合的な学習の時間の指導法

■授業の方針・概要

学校教育における重要な教育活動である総合的な学習の時間について、教育課程上の位置づけや教育的意義、計画や指導の方法等について学習する。また、それら基礎的知識をもとに、主体的・対話的で深い学びを基盤とした探究的な学習に関わる計画、指導の実践的な資質・能力を身につける。

■到達目標（学修成果）

- ・総合的な学習の教育的意義、教育課程における位置付け、特徴、学習指導要領における目標、内容について説明できる。
- ・総合的な学習の年間指導計画、指導方法、評価方法を実践的な視点から構成することができる。
- ・総合的な学習を中心として主体的・鄭重的な深い学びを実現できる教育課程、及びその単元を構成することが出来る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は教職課程履修者必修科目であり、卒業要件科目ではない。ただし、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となるものである。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション 本時の概要について	予習：教科書の目次を確認する 復習：本時全体計画の概要を整理する	計2時間
2回	総合的な学習とは何か 自身の過去の経験を振り返り考える	予習：過去の経験を考える 復習：本時の内容を整理する	計2時間
3回	総合的な学習の歴史 ジョン・デューイの理論等を踏まえ、その意義を理解する。	予習：教科書より歴史を学習しておく 復習：総合の指導理論の基礎を整理	計2時間
4回	現代の教育と総合的な学習 現代の教育政策を踏まえ、総合的な学習の意義を理解する	予習：中央教育審議会とは何か調べる 復習：教育政策上の意義を整理する	計2時間
5回	学習指導要領における位置付け1 学習指導要領から総合的な学習の基本的な位置付けを理解する	予習：学習指導要領とは何かを調べる 復習：目的について整理する	計2時間
6回	学習指導要領における位置付け2 教科等との関連も踏まえた計画方法を理解する	予習：指導計画の意味を調べる 復習：計画の基本について整理する	計2時間
7回	総合的な学習の指導方法1 「探究」に向かうための指導方法の概要を理解する	予習：探究と探求の違いを調べる 復習：探究に向かう方法の基礎を整理	計2時間
8回	総合的な学習の指導方法2 主体的・対話的深い学びに基づく指導方法を具体的に検討する	予習：主体的・対話的深い学びの意味 復習：指導方法の具体を整理する。	計2時間
9回	総合的な学習の評価方法3 実際的评价方法について理解し、事例を基に検討する。	予習：教育方法の概念について調べる 復習：評価の方法を整理する	計2時間
10回	総合的な学習の事例分析1 実際の総合的な学習の計画事例について分析する	予習：予め資料を読んで検討 復習：分析内容を整理する	計2時間
11回	総合的な学習の事例分析2 実際の総合的な学習の指導事例について分析する	予習：予め資料を読んで検討 復習：分析内容を整理する	計2時間
12回	学生発表1 学生が調べ検討した指導計画を発表し討論する	予習：発表資料への質問を考える 復習：各発表内容を分析、評価する	計2時間
13回	学生発表2 学生が調べ検討した指導計画を発表し討論する	予習：発表資料への質問を考える 復習：各発表内容を分析、評価する	計2時間
14回	学生発表3 学生が調べ検討した指導計画を発表し討論する	予習：発表資料への質問を考える 復習：各発表内容を分析、評価する	計2時間
15回	これまでの総復習 本科目が教員にとってどんな意義があるのかを考える	予習：過去の教育経験を検討 復習：本時全体の内容を整理する	計2時間

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題については、授業内、またはManaba folioにおいて解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

関川悦雄・今泉朝雄編『特別活動・総合的な学習の理論と指導法』弘文堂、2019年、2200円（教職科目「特別活動の指導法」と同じ）

■参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』2017年

■オフィスアワー・研究室

授業終了後、教務課（本校舎）に申し出てください。

■備考

なし

特別活動の指導法

今泉 朝雄 単独
3年 前期 教職課程必修 (2単位 講義)

◆道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)
特別活動の指導法

■授業の方針・概要

学校教育とは単に教科授業だけではなく、学級活動、生徒会活動、運動会や修学旅行などの各学校行事など教科外の集団的な特別活動も重要な教育内容に含まれる。本講義では特別活動の位置付け、目標、意義、内容、方法に関する基礎的な理解を深め、その実践的な計画力、指導力を身に付けることを目指す。講義だけではなく、様々な集団活動の実践も採り入れる。

■到達目標（学修成果）

- ・特別活動に関する基本的知識を実践に活用できるようになる。
- ・学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動の指導の計画、実践指導ができるようになる。
- ・生徒自治や生徒の主体的な活動の教育的意義について自身なりの考え方を提示できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は教職課程履修者必修科目であり、卒業要件科目ではない。ただし、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となるものである。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション 本時の概要／特別活動の定義について	予習：過去の特別活動を振り返る 復習：特別活動の定義を整理	計2時間
2回	特別活動の教育的意義 教科との比較において検討する	予習：過去の教育経験を検討 復習：本時の内容を整理する	計2時間
3回	特別活動の歴史と学習指導要領の位置付け 歴史を踏まえ、学習指導要領の位置づけを理解する	予習：日本の近代史を振り返る 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
4回	学校集団の基礎理論 同調圧力の理論をもとに、望ましい集団の有り様を検討する	予習：学級の経験を振り返る 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
5回	教育的集団をどう構成するか 事例から、学級集団の形成について理解する	予習：過去の学級経営を振り返る 復習：学級の集団形成方法を整理する	計2時間
6回	学級活動とは何か 学習指導要領から目標・内容・計画・評価について理解する	予習：学級活動の内容を振り返る 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
7回	話し合い活動の方法1 実際に話し合い活動を行う	予習：学校の話し合いを振り返る 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
8回	話し合い活動の方法2 話し合いの指導方法を理解する	予習：前回の取組の問題点を検討する 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
9回	学校行事の指導方法 学習指導要領から目標内容・計画・評価について理解する	予習：修学旅行の意義を検討する 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
10回	生徒会活動の指導方法 学習指導要領から目標内容・計画・評価について理解する	予習：過去の生徒会の経験を振り返る 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
11回	生徒自治と教育 事例から生徒自治のあり方について考える	予習：事例について予め検討する 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
12回	特別活動と学外組織との連携 学外連携の意義とその方法について理解する	予習：校外での取組の大変さを考える 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
13回	部活動とは何か 課外活動としての問題点について考える	予習：自身の部活動を振り返る 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
14回	部活動の指導方法 担当を一つ設定し、具体的に検討する	予習：活動計画を検討する 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
15回	これまでの総復習 本時の内容が教員にとってどんな意義があるのかを考える	予習：レポートに向けた作業を行う 復習：これまでの内容をまとめる	計2時間

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題については、返却後授業内において解説する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

関川悦雄・今泉朝雄編『特別活動・総合的な学習の理論と指導法』弘文堂、2019年、2200円と同じ）

■参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』2017年

■オフィスアワー・研究室

授業終了後、教務課（本校舎）に申し出てください。

■備考

なし

教育方法論

白井 勝美 単独
3年 前期 教職課程必修

(2単位 講義)

◆道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)
教育方法及び技術

■授業の方針・概要

マイクロティーチングを通して、教育の方法・技術について理論的又は実践的に分析・考察し、授業者としての授業設計と授業運営していくための基礎知識・方法を身に付ける。**授業形態はすべて Active Learning である。**

■到達目標 (学修成果)

- ①指導案の基礎を知り、授業略案を作成できるようになる。
- ②実際に授業を実施することで、授業準備の大切さがわかる。授業に必要な発声力、視線力等計 16 項目の授業技術について考察し、必要な技術が身につく。
- ③授業後の視点表によって生徒役の意見を聞き取り、今後の課題が発見できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション マイクロティーチング実施順番の確定 実施方法の確認 モデル授業の見学等	復習：各自のマイクロに向けて準備を開始する。	30分
2回	教科教育法基礎 (2年) ミニマイクロの成果確認 (話法・板書等)	復習：授業資料の確認 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
3回	マイクロ計画表について (学習指導案作成の基礎を知る)	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
4回	マイクロの実施 (視線と発声に焦点をあてる) (基礎的技術を考える)	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
5回	マイクロの実施 (教材プリント作成について考える) (情報機器での作成を考える)	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
6回	マイクロの実施 (話し方と言葉遣いに焦点をあてる) (授業技術の基礎を考える①)	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
7回	マイクロの実施 (情報機器を使用した情報活用能力に焦点をあてる))	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
8回	マイクロの実施 (視点表を使用して学習評価について考える)	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
9回	マイクロの実施 (アクティブラーニングに焦点をあてる) (主体的学びとは何か考える)	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
10回	マイクロの実施 (発問に焦点をあてる) (授業技術の基礎を考える②)	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
11回	マイクロの実施 (シナリオに焦点をあてる) (授業技術の基礎を考える③)	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
12回	マイクロの実施 (生徒の反応に焦点をあてる) (授業技術の基礎を考える④)	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
13回	マイクロの実施 (アクティブラーニングに焦点をあてる)	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
14回	教育方法のまとめ (チャート・カード等教材研究に焦点をあてる)	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
15回	まとめ (後期の教科教育法 (家庭) と教壇模擬演習へ向けての解説と指導)	復習：授業資料の総復習を行なう	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

各授業時に授業方法ポイントについてコメントと解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
日常課題	70%

- ①授業姿勢 (欠席・遅刻も含む) ②日常課題を重要視する (授業計画書 マイクロ授業用教材 マイクロ授業実施 マイクロ授業報告書 生徒役活動 コメント活動 生徒役視点表 等) ③その他追加については授業時に指示する。

■教科書

担当者がプリント資料を準備する。

■参考文献

授業時に適宜指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期 水曜日 (11時00分～14時00分) 教務課

後期 水曜日 (11時00分～14時00分) 教務課

研究室 教育実習研究室 (研究棟 4階)

■備考 マイクロ用の計画表は、実施前日までに教務課に提出してください。

教育現場での ICT 活用

小林 輝明 単独

2年 後期 選択 教職課程必修

(1単位 講義)

◆道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

(中学校及び高等学校 家庭)

情報通信技術を活用した教育の理念及び方法

■授業の方針・概要

教育現場における ICT (情報通信技術) の活用について、小中学校教員としての実務経験を活かし、これまでの経緯と「GIGA スクール構想」によって児童・生徒に 1 人 1 台の端末配布が進んでいる現状に基づいて、授業における児童・生徒および教員による ICT 活用の他、端末を効果的に使った教材研究・指導の準備と授業中の指導、学習評価に関する活用、校務における活用や教育データの活用を取り上げる。また、変化の激しい情報社会を自ら生きていくために必要な資質・能力である情報活用能力について、基礎的な理解、具体的な指導法、教育課程上の位置付けについて解説する。本授業では、講義および視聴覚資料による解説・事例紹介に加え、受講生が自ら ICT 機器を活用し実践的かつ体験的に学修する。

■到達目標 (学修成果)

- (1) 教育現場における ICT 活用の意義や理論について理解できるようになる
- (2) ICT を活用した教科指導や校務の実践を体験することで、授業への活用を具体的に考えられるようになる
- (3) 情報活用能力を育成する意義および情報モラルなどを指導できる能力を身に付けられるようになる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教職課程を履修している学生には必修の授業です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション 現代社会における ICT の役割 授業の進め方について、班編制をしてグループワークを行う	復習：キーワードの確認	復 2 時間
2回	教育における ICT と教師の ICT 活用能力 NITS のオンライン講座等を活用して学ぶ	予習：学習指導要領の確認 復習：視聴覚教材の内容復習	予 1 時間 復 1 時間
3回	情報モラル・情報セキュリティ教育の重要性 SNS でのトラブルなどを例にグループワークを行う	予習：キーワードの確認 復習：事例の収集と解決策の検討	予 1 時間 復 1 時間
4回	プログラミング教育がめざすこと プログラミング教材を体験し指導法を学ぶ	予習：キーワードの確認 復習：学修内容の復習	予 1 時間 復 1 時間
5回	授業での ICT の活用① 授業における ICT 機器の活用を考え発表する	予習：指導方法や発表案の検討 復習：指導方法や発表案の検討	予 2 時間 復 2 時間
6回	授業での ICT の活用② 授業における ICT 機器の活用を考え発表する	予習：指導方法や発表案の検討 復習：指導方法や発表案の検討	予 2 時間 復 2 時間
7回	校務での ICT の活用 校務における ICT 機器の活用を考え発表する	予習：実施方法や発表案の検討 復習：実施方法や発表案の検討	予 2 時間 復 2 時間
8回	まとめと教職への進路設計 教職の意義を考え、今後の進路設計をする	予習：教職までの道程の確認、ICT 導入 の改善点の検討	予 1 時間

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

最終授業及びメール等を用いて行います

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

ICT “超かんたん” スキル 時事通信社

■参考文献

授業内で紹介します

■オフィスアワー・研究室

連絡先：教務課 出講日：土曜日

■備考

なし

生徒指導論（進路指導を含む）

今泉 朝雄 単独

2年 後期 教職課程必修

（ 2単位 講義 ）

◆道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

（中学校及び高等学校 家庭）

生徒指導の理論及び方法

■授業の方針・概要

本科目は、学校の二大教育機能の1つである「生徒指導」と、生徒の生き方・あり方に関わる「進路指導・キャリア教育」の指導法を学習するものである。その意義や原理を理解した上で、生徒全体への指導方法（ガイダンス）、個別の課題を抱える生徒の指導方法（カウンセリング）の基礎をそれぞれ理解し、その具体的な対応方法を実践的に検討する。

■到達目標（学修成果）

- ①組織的に生徒指導を進め、生徒の自己指導能力を育成するために必要な知識・技術を指導実践に活用できるようになる。
- ②キャリア教育、進路指導についての実践指導、教育活動計画ができるようになる。
- ③生徒指導、進路指導・キャリア教育の視点に立った各授業等の構成、評価による指導改善の推進、ガイダンスとカウンセリングの充実、組織的体制に関わるに必要な知識を指導実践に活用できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は教職課程履修者必修科目であり、卒業要件科目ではない。ただし、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となるものである。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	生徒指導・進路指導・キャリア教育とは何か 基礎的概念を理解する	予習：生徒指導の概念を考える 復習：基礎概念の言葉を整理する	計2時間
2回	生徒指導の実際を知る ある生徒指導の日記から検討する	予習：生徒指導の経験を振り返る 復習：経験と授業の内容を結びつける	計2時間
3回	理想的生徒指導と管理的生徒指導 生徒指導と法律	予習：校則の内容について振り返る 復習：本時の内容の意見をまとめる	計2時間
4回	生徒指導と教育課程 全体計画と指導体制	予習：教育課程における生徒指導を検討 復習：指導体制についてまとめる	計2時間
5回	生徒指導の方法的基礎 教師のあり方と共感的理解、ガイダンスとカウンセリング	予習：教師はどうあるべきか考える 復習：事例を踏まえ本時を整理する。	計2時間
6回	生徒理解の方法とその活用 事例から考える	予習：よい教師の条件を考える 復習：本時の内容を整理する	計2時間
7回	生徒指導の課題とその指導1 いじめ問題への対応	予習：いじめ事件をネットで調べる 復習：対応策を自身なりにまとめる	計2時間
8回	生徒指導の課題とその指導2 日常生活の指導、集団活動の指導	予習：日常生活の指導を振り返る 復習：集団活動のあり方について整理	計2時間
9回	生徒指導の課題とその指導3 インターネットと生徒	予習：自身のネット利用を振り返る 復習：本時の課題について検討する	計2時間
10回	進路指導・キャリア教育の教育的意義とその内容	予習：進路指導の意味を振り返る 復習：予習内容と本時の内容を比較	計2時間
11回	進路指導・キャリア教育の教育課程における位置付けと全体計画	予習：キャリア教育の経験を振り返る 復習：全体計画を立ててみる	計2時間
12回	自分の将来を考える ガイダンス機能による指導のあり方	予習：ガイダンスの意味を復習 復習：ガイダンスの計画を立てる	計2時間
13回	職場体験とキャリア教育 教育課程にどう位置付けるのか	予習：職場体験を振り返る 復習：過去の経験と本時の内容を比較	計2時間
14回	進路指導・キャリア教育におけるカウンセリングと自己評価	予習：4.5回授業を復習 復習：実際の自己評価方法を検討	計2時間
15回	まとめ これから求められる教育と生徒指導・キャリア教育の意義	予習：全体の復習 復習：本科目の意義をまとめる	計2時間

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

返却後授業内において解説する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

文部科学省『生徒指導提要』2011年

■オフィスアワー・研究室

授業終了後、教務課（本校舎）に申し出てください。

■備考

なし

教育相談（カウンセリングを含む）

手島 陽介 単独
3年 前期 教職課程必修

（ 2単位 講義 ）

◆道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

（中学校及び高等学校 家庭）

教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

■授業の方針・概要

教育相談は、幼児、児童生徒が集団の中で適応する力を育み、個性や人格の成長を支援する教育活動である。発達に即して心理的特質や課題を捉え、支援に必要な基礎的知識を身につける。

■到達目標（学修成果）

教育相談の意義と理論を理解し、教育相談の具体的な進め方や、教育相談の基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的知識）を理解する。さらに、カウンセリングの技術が、教育現場や社会でどのように生かせるかを学んでいく。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、卒業要件科目ではなく、教員免許状取得のための教職課程必修科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	教育相談の意義と方法について－教育相談が教育現場で求められる意義－	予習：過去、自身が相談をして良かった体験、そうでない体験を探してくる	15分
2回	現代社会とメンタルヘルスを考える－教師に求められる臨床的視点－	復習：授業プリントから、なぜ教育場面に相談が必要なのか振り返る	30分
3回	幼児、児童及び生徒の問題行動と教育相談	復習：授業プリントを復習し、問題行動の事例について振り返り、対応方法を考える	30分
4回	支援体制と教育相談－チームとしての学校のあり方、支援のための体制づくり－	復習：授業プリント、教科書から、支援体制のあり方を復習する	30分
5回	教育相談の流れを概観する① 相談から問題解決までの流れについて	復習：教科書及びプリントを読み返し、相談の流れをイメージする	30分
6回	教育相談の流れを概観する② 他職種や専門機関、地域との連携について	復習：教科書及びプリントを読み返し、他職種や専門機関等をインターネットなどで調べる。	30分
7回	カウンセリングの基本的態度を学ぶ－受容、傾聴、共感、カウンセリングマインド－	復習：カウンセリングの基本的態度を復習し、関わり方を実践してみる	30分
8回	カウンセリングの主要な理論と技法①－精神分析、来談者中心療法、行動療法－	復習：教科書及びプリントを読み返し、心理療法の考え方を復習する	30分
9回	カウンセリングの主要な理論と技法②－認知行動療法、日本の心理療法－	復習：教科書及びプリントを読み返し、心理療法の考え方を復習する	30分
10回	教育相談の事例から学ぶ①－不適応事例と教育相談－	復習：授業で取り上げた事例について、自分なりの対応方法を考える	30分
11回	教育相談の事例から学ぶ②－保護者への支援と教育相談－	復習：授業で取り上げた事例について、自分なりの対応方法を考える	30分
12回	発達段階や発達課題に応じた教育相談について	復習：教科書、プリントを読み返す	30分
13回	予防的な取り組みと教育相談について	復習：教科書、プリントを読み返す	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習：配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ 課題や小テストのフィードバックを行う	復習：返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説とテストの返却をし、教育相談のまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

春日井敏之・伊藤美奈子編著、『よくわかる教育相談』、ミネルヴァ書房
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室

後期：水曜日（12：00-15：00）研究室

【連絡研究室】心理学研究室（研究棟1階 6015）

■備考

毎時間、プリントと教科書を準備してください

教職実践演習（中等）

白井 勝美 単独

4年 後期 教職課程必修

（ 2単位 演習 ）

◆教育実践に関する科目

（中学校及び高等学校 家庭）

教職実践演習

■授業の方針・概要

本授業は「教員免許状取得のための教職課程完結演習」と位置付ける。

①「教育実習報告会」の準備を行う。②履修開始段階から作成した「教職課程履修カルテ（ポートフォリオ）」の整理と今後の課題をまとめる。③実習経験を踏まえて、改めて教科（「家庭」）教育法の指導法を考える。④「教員」の使命等について、教科外教育も含めて改めて考える。⑤授業全体を通して、自らの教員としての資質を考える。**授業形態は、講義だけではなく一部 Active Learning を取り入れている。**

■到達目標（学修成果）

①実地教育実習の体験のまとめが出来たか。②4年間で教育実践力を身に付けることが出来たか。

③4年間で（教育及び教材等の）研究的態度を養うことが出来たか。④最終学年で自らの教員としての資質を判断することが出来たか。この4点について、自己評価を通して今後身に付けるべきことを確認する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	前期科目「教育実習」の事後指導に引き続き「教育実習報告会」に向けての指導を実施する（資料集の作成他）	予習：資料集の下書きと清書を行なう。	60分
2回	前期科目「教育実習」の事後指導に引き続き「教育実習報告会」に向けての指導を実施する（資料集の作成他 発表準備）	予習・復習：資料集の作成を継続する。口頭発表準備を行なう。	60分
3回	前期科目「教育実習」の事後指導に引き続き「教育実習報告会」に向けての指導を実施する（資料集の綴じ込み作業他 発表準備）	予習：資料集の完成を目指す。指定枚数の印刷を行なう。口頭発表の準備を行なう。	60分
4回	前期科目「教育実習」の事後指導に引き続き「教育実習報告会」に向けての指導を実施する（口頭発表リハーサル）	予習・復習：口頭発表準備を行なう。	60分
5回	前期科目「教育実習」の事後指導に引き続き「教育実習報告会」に向けての指導を実施する（口頭発表リハーサル）	予習・復習：口頭発表準備を行なう。	60分
6回	「教育実習報告会」の開催	予習：個人発表準備と役割分担と仕事内容の確認を行なう。	60分
7回	外部指導者（校長経験者）特別授業①	復習：特別授業内容を振り返る	30分
8回	外部指導者（校長経験者）特別授業②	復習：特別授業内容を振り返る	30分
9回	外部指導者（弁護士）特別授業	復習：特別授業内容を振り返る	60分
10回	各自の研究授業報告を通して、指導力の確認と改善点について意見交換を行う①	予習：担当者は資料を作成し報告の準備をする	60分
11回	各自の研究授業報告を通して、指導力の確認と改善点について意見交換を行う②	予習：担当者は資料を作成し報告の準備をする	60分
12回	「教職課程ポートフォリオ」の整理を目指す。これまでの学修について意見交換を行なう①	予習：ポートフォリオ保管物の整理	30分
13回	「教職課程ポートフォリオ」の整理を目指す。これまでの学修について意見交換を行なう②	予習：ポートフォリオ保管物の整理	30分
14回	「教職課程ポートフォリオ」の最終作業を行なう	予習：ポートフォリオ保管物の整理	30分
15回	教職課程完結演習としてのまとめ 「教職課程ポートフォリオ」を完成させる	復習：各自「教職課程ポートフォリオ」を持ち帰り保管する。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

①各自の「研究授業報告」を通して、実施者全員で内容の確認と改善点を意見交換する。

②「教職課程ポートフォリオ」への助言を行う。

■成績評価の方法・基準

教育実習報告会関連	25%
教員免許取得に向けての姿勢	25%
学習態度 他	25%
カルテ（ポートフォリオ）	25%

教員として必要な知識・技能、教員免許取得に向けての姿勢を確認する。なお、総合評価は教職委員会メンバーで最終確認する。

■教科書

担当教員が資料を作成する。

■参考文献

必要に応じて提示する。

■オフィスアワー・研究室

前期 水曜日（11時00分～14時00分） 後期 水曜日（11時00分～14時00分） いずれも教務課

研究室 研究棟4階 教育実習研究室

■備考 なし